

中国共産党中央委員の統計的分析

小 竹 一 彰

1. はじめに

中国共産党の中央委員は中華人民共和国において指導的立場にある典型的な幹部集団であり、通例5年に1回開催される中国共産党全国代表大会で選出されるのが原則になっている。そこで選出された中央委員の構成には各党大会の時点における中国共産党指導部の政治的意思のあり方が投影されているはずである。したがって、選出された全中央委員の政治的・社会的構成の特徴は、彼らの選出時点における中国共産党指導部の政治的意思を解明する重要な手がかりだと考えられる。とりわけ、何回かの党大会で選出された中央委員の諸特徴を比較できれば、中国政治の変化の方向を明らかにする有力な方法になるであろう。

本稿では、1978年末に始まったとされる「改革・開放」の時期を「総設計師」として指導した鄧小平が直接関わったとみられる3回の党大会で選出された全中央委員に対して、できるだけ統計的な分析を試みる。すなわち、1982年の中国共産党第12回全国代表大会（以下、12全大会と略記）、1987年の第13回全国代表大会（同じく13全大会）、1992年の第14回全国代表大会（同じく14全大会）で選出された延べ573名の中央委員が分析の対象である（当然、再任された中央委員が多数存在するので、実数はこれよりも少なくなる）。これは鄧小平時代の中国政治を解明する試みのひとつということになる⁽¹⁾。

ただ、1997年秋に開催された中国共産党第15回全国代表大会で選出され

た中央委員については、上記3回の党大会と異なり、鄧小平の死後に開催されたばかりでなく、同一レベルの統計的処理ができるほどの中央委員に関するデータがまだ公表されていないので、本稿の検討の対象から除外している。また、党大会に匹敵するほどの中央委員の交代が行われた1985年の中国共産党全国代表会議で選出された中央委員については同様の統計的処理が完成していないので、本稿ではあつかわなかった。さらに、参照すべき既往の研究成果についても十分に言及していない⁽²⁾。研究ノートとして発表する所以である。なお、本稿は1996、1997年度の文部省科学研究費補助金による「改革・開放時代の中国における幹部制度の構造、運用および変容」(【課題番号：08208214】、重点領域研究(2)「現代中国の構造変動」公募研究)の研究成果の一端である。

2. 各党大会選出の中央委員に対する統計的処理

1982年の12全大会では209名、87年の13全大会では175名、92年の14全大会では189名の中央委員がそれぞれ選出された。まず、以下のような手順で彼らに関する各種データを統計的処理が可能な形態へ置換する作業を行うことにする。

第1に、統計的処理の対象となる範囲を正式の中央委員に限定する。共産党の場合には正式の中央委員以外に候補中央委員(日本では中央委員候補と報道されるが、本稿では中国語のまま表記する)も存在するが、彼らが正式の中央委員に選任されなかったのにはそれなりの政治的理由があると考えられる。また、対象範囲の広い方が統計的な偏差を回避できるのは確かだが、それではデータの統計的処理を繁雑になってしまうからである。

第2に、各中央委員に関する各種データの出典としては、基本的に以下の3冊の資料に依拠する。

①劉金田・沈学明『歴届中共中央委員人名詞典』(中共党史出版社、1992年)。

②現代中国人名辞典編集室『現代中国人名辞典 1991年版』（霞山会、1991年）。

③中共中央文献研究室注釈組『中共第十四届中央委員名録』（中央党史出版社、1993年）。

ある人物のデータがこの3冊のすべてに収録されている場合には、その採録は③→①→②という優先順位で行う。

第3に、以下の事項について各中央委員の個別的データを記入した一覧表を作成する。

（1）姓名。その配列は、中国側が中央委員の名簿を公表した際の中国語簡体字の筆画順による。

（2）選任。中央委員として再任された場合には「再」、新たに選任された場合には「新」、一度退任して復帰した場合には「元」と表記する。なお、「(再)」などとカッコ付きで表記しているのは、前の党大会が終了してから次の党大会までの間に中央委員に任命されて再任された場合である。

（3）性別。言うまでもなく、「男」「女」と表記している。

（4）民族。中国側が少数民族だと公表している中央委員について、その旨を民族名とともに表記する。したがって、この事項に記入していない中央委員はすべて漢民族になる。

（5）原籍。各中央委員の戸籍の1級行政区（省・直轄市・自治区）と2級行政区（県・市）の地名を表記する。ただし、行政区画や地名が変更された場合には、できるだけ当人の出生時の地名を記入した後のカッコ内に現在の地名を記入した。なお、「原籍」とはあえて日本語に翻訳すれば本籍の意味だが、中国では日本と異なり移動することができない。

（6）生年。出典の①と③に掲載された中国側のデータを優先させた。

（7）入党。出典の①と③に掲載された中国側のデータを優先させた。

（8）現職。原則として党大会開催時の職務を表記するが、党大会の直後に人事異動が行われた場合にはそれを極力記入した。その人事異動が党大会の人事と密接に関連していると考えられるからである。ただ、中国でも

中央委員以上の指導的人物は多くの職務を兼任しているので、そのなかでも主要と考えられる職務だけを記入する（たとえば、国務院総理は共産党政治局常務委員でもあるが、ここでは前者だけを記入している）。なお、職名の後のカッコ内に記入した数字は、その職務へ就任した時期を示している。

（9）前職1。現職に就任する直前に担当していた職務を表記する。これも多くの兼職のうち主要と考えられる職務だけを記入する。なお、職名の後のカッコ内に記入した数字は、その職務へ就任した時期を示している。

（10）前職2。前職1に就任する直前に担当していた職務を表記する。これも多くの兼職のうち主要と考えられる職務だけを記入する。なお、職名の後のカッコ内に記入した数字は、その職務へ就任した時期を示している。

（11）属性。各中央委員の現職、前職1、前職2といった職務の変遷を総合的に判断して記入する。その際に中国で最も包括的な職業分類として長らく汎用されてきた「幹部、軍人、知識分子、工・農（労働者および農民）」という4大区分に準拠している⁽³⁾。この4大区分による属性の判定は以下のように処理する。まず、各中央委員に対して現職およびそれ以前の職務の変遷によって属性を判定する。そうすると出身では知識分子や工・農と判定できる中央委員も現状ではほとんどすべて幹部か軍人として活動していると考えざるをえなくなる。次に、幹部か軍人か紛らわしい中央委員のうち、1955年あるいはその後に軍の階級を授与されている人物はとりあえず軍人と判定したことが多い。第3に、出身などにより別の判定も可能と思われる場合については、「/」の後に?マーク付きでその可能な属性も記入している。ただし、本稿でこれから使用する属性は、属性欄の先頭部分の表記に限定している。第4に、属性の「幹部」の後に付記した（党中央）、（国家）、（地方）はそれぞれ党中央機構に在職する幹部、国家幹部、地方幹部を意味している。これは「幹部」を細分化するために行ったものだが、本稿では検討の対象からはずした。

（12）備考。以上の（1）から（11）までに記入できないが、特に表記すべ

き事項を記入する。たとえば、実際の出生地、縁戚関係などがそうである。

なお、「改革・開放」時代には共産党員の高学歴化も要請されているので、最終学歴についても考慮すべきだが、本稿では記入していない。最終学歴が明記されていない中央委員が少なくないし、在職研修の位置づけが判断しがたいためである。この点は今後補充すべき課題であろう。

以上のような作業の結果を3回の党大会で選出された中央委員別に一覧にしたのが、本稿末尾に添付した附表1から附表3である。これからの検討は、この3つの附表を基礎に進めることになる。なお、以下では各党大会で選出された中央委員をそれぞれ12期中央委員、13期中央委員、14期中央委員と表記する。

3. 中共中央委員の構成の統計的变化

附表1から附表3までのようにまとめられた中央委員一覧について、その全般的構成の特徴、彼らの出身地域の分布、世代交代の特徴について検討しよう。なお、各期の中央委員の総数が異なるので、以下では絶対数としての人数よりも構成比率を主に使用する。

(1) 中央委員の政治社会的構成の変化

附表1から附表3に記入した各中央委員の「属性」、少数民族出身者、女性を各党大会別に整理すると、下記の表1のような結果になる。

表1 中国共産党中央委員の党大会別構成

	総数	幹部	軍人	知識分子	工・農	少数民族	女性
12全大会 (1982)	209 (100)	163 (78.3)	46 (22.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (6.7)	8 (3.8)
13全大会 (1987)	175 (100)	143 (81.7)	32 (18.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (9.1)	10 (5.7)
14全大会 (1992)	189 (100)	145 (76.7)	44 (23.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (7.4)	12 (6.3)

(注記) 附表1から附表3により集計。()内は百分率で、小数点以下第2位を四捨五入した。以下の表2から表11までも同様。

この表の各項目のうち、「少数民族」と「女性」の2項目をまず取りあげる。両者の人数および比率は「総数」に対する値で、「幹部、軍人、知識分子、工・農」という「属性」上の4大区分に対して何らの直接的関連もない。ただ、おそらく偶然にも「少数民族」の中央委員のほとんどと「女性」の中央委員のすべては「幹部」に属している。

特に「少数民族」の中央委員の比率は拘束力のある「指令性の比例」である⁽⁴⁾。実際にもその比率は中国の人口統計における少数民族の比率よりも若干大きくなっている。これは、少数民族人口の対総人口比よりも多めに「少数民族」の中央委員を選出するという原則の存在をうかがわせる。中国共産党がそれだけ少数民族を政治的に優遇していると言えないこともない。ただ、彼ら「少数民族」の中央委員が自らの出身の少数民族をどのくらい代表しているのかという問題、また彼らのほとんどが「幹部」で「軍人」は各期の中央委員にわずかしかない傾向をさらに考慮する必要がある。なお、1997年の15全大会では、「少数民族」の中央委員は14人、全中央委員に対して7.3パーセントで、人数ではその5年前の14全大会と同数、百分比でもほとんど変わらない。

「女性」の中央委員の比率は、「少数民族」とは異なり、拘束力のない「指導性の比例」である⁽⁵⁾。しかし、この3回の党大会に関する限り、人数および比率ともに着実に上昇してきた。だが、1997年の15全大会では人数で8人、全中央委員に対して4.1パーセントに減少している。この大幅な減少は、直接には「女性」の中央委員の比率が「指導性の比例」にすぎないためだと考えられる。また、中共指導部が中央委員として適当だと判断する女性幹部の絶対数が少ないからだと思われる。さらに言えば、中国における女性の政治への進出には現在も大きな困難が存在しているのかもしれない。

次に、表1を作成した主な目的である「幹部、軍人、知識分子、工・農」の4大区分について各党大会ごとの変化を検討しよう。この4大区分はどれか1つが増加すると残りの3者が減少するという相対的な関係にあるこ

とをまず再確認しておく。その上で表1を見る限り、「知識分子」と「工・農」は皆無である。これは、すでに説明したように、各中央委員の主な現職によって属性を判定したためである。彼らの出身に重点を置いて判定すれば多少異なる結果が表れるが、ここでは取りあげない。したがって、表1において各中央委員は「幹部」か「軍人」のどちらかと判定されることになる。

この点を前提にして各党大会別の「幹部」と「軍人」の比率の変化を検討すると、13期中央委員の中で「軍人」の比率が20%を下回っていることが注目される。12期中央委員と14期中央委員に「軍人」の占める比率が20%を上回っているのと好対照である。なお、15全大会（1997年）で選出された中央委員中の軍人についても、計42人、比率で21.8%に達していると算出した例がある⁽⁶⁾。それだけに13期中央委員に占める「軍人」の比率が18.3%⁽⁷⁾だということに、何か政治的な意味があったと推測できる。13期中央委員とその5年後に選出された14期中央委員の比較により、この問題を解明する手がかりがえられるようである。つまり、14期中央委員は、13期中央委員と比較すると、「幹部」の人数が微増に止まっているのに対して、「軍人」が人数で12人増加し、比率では20%を再び超えることになった。14全大会では「幹部」の人数を実質的に現状維持にしたまま「軍人」の人数を比率で20%以上にするために増やすという指導部の政治的意思が働いたと考えざるをえない。

13全大会の際に中央委員に占める「軍人」の比率を20%未満に抑えた当初の意図ははっきりしない。「軍人」の政治的影響力を減少させようとしたのかもしれないし、軍に対して中央委員会との関係の少ない指導形態を考えたのかもしれない。しかし、このように中央委員中の「軍人」の比率を抑えこんだ結果、中国軍部は当時の共産党指導部に対する反発を強めたであろう。具体的には、13全大会で中共中央総書記に選任された趙紫陽が1989年6月の天安門事件に関連して失脚するほど政治的立場を弱めていった原因のひとつはこの「軍人」の比率の抑制に関わっていると思われる。

趙紫陽の後任に指名された江沢民が14全大会で「軍人」の比率を20%台に回復させたのは、前車の轍を踏まないために選択の余地のない決定だったことになる。

(2) 中央委員の原籍の地域的分布

各党大会で選出された中央委員を原籍に応じて整理すると、どのような特徴が指摘できるだろうか。中国の政治について「上海閥」とか「北京閥」などという地方的な勢力間の対立が論じられることが多い。このような事態がはたして存在しているのかどうかを視野に入れながら、中央委員の原籍別分布を取りあげよう。なお、本稿では地域的分布を省・直轄市・自治区といういわゆる1級行政区別で整理した。

以下の各表のように3回の党大会で選出された中央委員を原籍別に整理すると、幾つかの特徴的な傾向がうかがえる。

まず、「少数民族」と「女性」のどちらも特定の1級行政区だけに集中し、しかも両者が好対照を見せている。前者の原籍が辺境の1級行政区に集中しているのは、中国の少数民族の地理的分布から考えても当然といえよう。後者の原籍が沿海地区に集中しているのは、中国でも経済的な先進地域ほど女性の役割を無視できなくなっていることを示しているように思われる。

次に、中央委員全体の原籍別分布を検討すると、河北、山東、江蘇の3省に原籍を持つ中央委員が際だって多い。この3省を原籍とする中央委員を合計すると、12期中央委員で34.4%、13期中央委員で39.4%、14期中央委員で42.3%に達する。特に江蘇省は12全大会から14全大会までの10年間に中央委員の数を急激に伸ばしてきた。3回の党大会にわたって、これほど順調に中央委員を増加させた1級行政区はほかにはない。それ以外の1級行政区では、多かれ少なかれ中央委員数の減少あるいは横ばいが発生している。そこで、江蘇省を原籍とする多数の中央委員が江沢民の政治基盤になっているかどうかという興味深い問題が浮上する。筆者はこれに即座に解答できるだけの準備はない。これから検討すべき課題ということにな

表2 12期中央委員の原籍別分布

	総数	幹部	軍人	知識分子	工・農	少数民族	女性
全 国	209 (100)	163 (78.0)	46 (22.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (6.7)	8 (3.8)
北 京	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
天 津	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
河 北	25 (12.0)	24 (11.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
山 西	13 (6.2)	12 (5.7)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
内 蒙 古	2 (1.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	0 (0.0)
遼 寧	3 (1.4)	3 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
吉 林	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
黒龍江	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
上 海	2 (1.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
江 蘇	22 (10.5)	22 (10.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
浙 江	6 (2.9)	6 (2.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)
安 徽	8 (3.8)	6 (2.9)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
福 建	11 (5.3)	8 (3.8)	3 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
江 西	16 (7.7)	7 (3.3)	9 (4.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
台 湾	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)

	総数	幹部	軍人	知識分子	工・農	少数民族	女性
山 東	25 (12.0)	20 (9.6)	5 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
河 南	11 (5.3)	7 (3.3)	4 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
湖 北	13 (6.2)	5 (2.4)	8 (3.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
湖 南	11 (5.3)	5 (2.4)	6 (2.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
広 東	4 (1.9)	3 (1.4)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
広 西	2 (1.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	0 (0.0)
海 南 ⁽¹⁾							
港・澳 ⁽²⁾							
四 川	13 (6.2)	9 (4.3)	4 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
貴 州	2 (1.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
雲 南	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
西 蔵	2 (1.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	0 (0.0)
陝 西	11 (5.3)	10 (4.8)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
甘 粛	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
青 海	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
寧 夏	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
新 疆	3 (1.4)	3 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.4)	0 (0.0)

(1) 海南省の設置は1988年であり、それ以前は広東省に属していた。

(2) 「港・澳」は香港とマカオを指す。香港は1997年に中国へ復帰し、マカオは1999年に復帰する予定である。

表3 13期中央委員の原籍別分布

	総数	幹部	軍人	知識分子	工・農	少数民族	女性
全 国	175 (100)	143 (81.7)	32 (18.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	16 (9.1)	10 (5.7)
北 京	2 (1.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
天 津	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
河 北	21 (12.0)	18 (10.3)	3 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
山 西	5 (2.9)	4 (2.3)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
内 蒙 古	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)
遼 寧	6 (3.4)	5 (2.9)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)	0 (0.0)
吉 林	5 (2.9)	3 (1.7)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)	0 (0.0)
黒龍江	2 (1.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)
上 海	2 (1.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
江 蘇	23 (13.1)	21 (12.0)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.7)
浙 江	13 (7.4)	13 (7.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)
安 徽	4 (2.3)	3 (1.7)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
福 建	5 (2.9)	5 (2.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)
江 西	3 (1.7)	3 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)
台 湾	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)

	総数	幹部	軍人	知識分子	工・農	少数民族	女性
山 東	25 (14.3)	12 (6.9)	13 (7.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)
河 南	6 (3.4)	4 (2.3)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
湖 北	7 (4.0)	5 (2.9)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
湖 南	9 (5.1)	7 (4.0)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)
広 東	10 (5.7)	10 (5.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)
広 西	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
海 南 ⁽¹⁾							
港・澳 ⁽²⁾							
四 川	8 (4.6)	7 (4.0)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)
貴 州	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)
雲 南	2 (1.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)
西 蔵	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)
陝 西	6 (3.4)	4 (2.3)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
甘 肅	2 (1.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)	0 (0.0)
青 海	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
寧 夏	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
新 疆	3 (1.7)	3 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.7)	0 (0.0)

(1) 海南省の設置は1988年であり、それ以前は広東省に属していた。

(2) 「港・澳」は香港とマカオを指す。香港は1997年に中国へ復帰し、マカオは1999年に復帰する予定である。

表4 14期中央委員の原籍別分布

	総数	幹部	軍人	知識分子	工・農	少数民族	女性
全 国	189 (100)	145 (76.7)	44 (23.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	14 (7.4)	12 (6.3)
北 京	3 (1.6)	3 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
天 津	2 (1.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
河 北	26 (13.8)	19 (10.1)	7 (3.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
山 西	7 (3.7)	5 (2.6)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
内 蒙 古	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
遼 寧	8 (4.2)	5 (2.6)	3 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)	0 (0.0)
吉 林	8 (4.2)	6 (3.2)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)	0 (0.0)
黒龍江	3 (1.6)	3 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
上 海	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
江 蘇	30 (15.9)	25 (13.2)	5 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.6)
浙 江	15 (7.9)	15 (7.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.6)
安 徽	5 (2.6)	4 (2.1)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
福 建	2 (1.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
江 西	3 (1.6)	3 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
台 湾	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)

	総数	幹部	軍人	知識分子	工・農	少数民族	女性
山 東	24 (12.7)	11 (5.8)	13 (6.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
河 南	5 (2.6)	4 (2.1)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
湖 北	10 (5.3)	8 (4.2)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
湖 南	10 (5.3)	6 (3.2)	4 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
広 東	5 (2.6)	5 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
広 西	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
海 南	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
港・澳*							
四 川	10 (5.3)	8 (4.2)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
貴 州	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
雲 南	2 (1.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
西 蔵	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
陝 西	3 (1.6)	1 (0.5)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
甘 粛	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
青 海	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
寧 夏	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
新 疆	2 (1.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)	0 (0.0)

* 「港・澳」は香港とマカオを指す。香港は1997年に中国へ復帰し、マカオは1999年に復帰する予定である。

ろう。また、山東省を原籍とする中央委員のなかで「軍人」の比率がきわめて高いことも興味深い現象である。現在の解放軍指導部において山東省出身者が特別な勢力を保持しているのかも検討すべき課題になろう。

中央委員数では上記3省ほどでないにしても、10年間にわたって常に中央委員が増加してきた1級行政区には、浙江省や遼寧、吉林、黒龍江の東北3省、北京市、天津市がある。ただ、浙江省の場合は13全大会から14全大会にかけての増加率はむしろ横ばいに近くなっている。これを喬石が15全大会で引退せざるをえなくなった背景と見なしうるのかも、今後解明すべき課題であろう。

逆に本稿が対象とする10年間に中央委員がいちじるしく減少した1級行政区として、江西、福建、陝西、河南の各省がある。これらのうち最初の3省には中国革命の時代に革命根拠地が設置されていた。同時に、この地域の多くは地理的には内陸に位置し、経済的には多少とも後進的な条件が存在している。これらの1級行政区出身の中央委員が減少したことは、中国における革命の時代から建設の時代へのなしくずし的な転換を象徴していると思われる。ただし、それがこの地域の政治的影響力の低下を示しているのかもこれから検討すべき課題であろう。内陸に位置するとか経済的に後進的な地域でも、中央委員の人数を減少させないためには革命に対する貢献以外の建設の時代にふさわしい別個の条件が必要なのもかもしれない。湖北省や四川省のように中央委員の人数がいったんは減少してもふたたび増勢に転じた事例は、その点で今後さらに検討に値すると思われる。

このように中央委員の人数が多い、あるいはその増加率が目ざましい1級行政区が経済面で先進的な沿海地域に集中する傾向は、現在の中国共産党の性格を象徴している。すなわち、共産主義の理想にもとづく平等の実現よりも経済の効率的発展を重視する基本方針が中央委員の地域的分布にも投影しているわけである。

ただ、沿海地域でも広東省だけは中央委員に関しては例外的といえる。

同省に原籍を持つ中央委員は12全大会から13全大会までは浙江省とほぼ同程度で増加したが、14全大会では急激な減少を見せた。この原因としては、広東省と関わりの深かった趙紫陽の失脚の影響、広東省の反中央的な傾向に対する中央側の警戒心などが推測できる。

ここで検討の対象とした中央委員の原籍別分布に関する限り、「上海閥」とか「北京閥」の存在は裏づけられない。上海市や北京市を原籍とする中央委員は少数にすぎないからである。上海市や北京市の人口が他の1級行政区の数分の1から10分の1に過ぎないという事情から考えても、この両市を原籍とする中央委員がそれほど多数に達する事態は想像しがたい。したがって、「上海閥」や「北京閥」という問題は各中央委員がかって担当した、あるいは現在担当している地方における職務から検討すべきだと思われる。

(3) 中央委員の新旧交代

中国で幹部の若返りが強調されるようになってからかなりの時間が経過している。それが実際にはどのくらい進んでいるのかを中央委員に即して検討しよう。まず、各期の中央委員において新任がどれくらいいるかを次の表5により確認する。

表5 中共中央委員の交替率

	総数	新任(a)	再任(b)	昇格(c)	復帰(d)	(a)+(c)
12全大会 (1982)	209 (100)	96 (45.9)	98 (46.9)	15 (7.2)	0 (0.0)	111 (53.1)
13全大会 (1987)	175 (100)	39 (22.3)	113 (64.6)	23 (13.1)	0 (0.0)	62 (35.4)
14全大会 (1992)	189 (100)	52 (27.5)	105 (55.6)	29 (15.3)	3 (1.6)	81 (42.9)

これによる限り、再任されなかった中央委員が最も多かったのは1982年の12全大会である。これはある意味で当然の事態である。12全大会は、毛沢東路線の継承を標榜した華国鋒体制に訣別し、鄧小平時代の本格的な到

来を告げる党大会だった。したがって、1977年の11全大会で選出された中央委員のなかで毛沢東の急進的路線に近い人々を大幅に左遷したのである。これが、新任の中央委員だけで46%弱、候補中央委員からの昇格組を含めれば過半数に達するという大規模な中央委員の交代が発生した主な理由と考えられる。これに対して、13全大会ではそれほど大規模な新旧交代が行われていない。その理由の最たるものは、本稿では省略した1985年の中国共産党全国代表会議で高齢の人物を中心に中央委員から退任させたからであろう。中央委員の人事異動については、13全大会をその2年前の党全国代表会議と一括して扱うべきなのかもしれない。

14全大会における中央委員の新旧交代は、規模から言えば、12全大会と13全大会の中間に位置づけられる。「改革・開放」を開始したとされる1978年末からおよそ14年を経たので、世代交代の必要が強まっていたのであろう。だが、天安門事件後に開催された党大会だったので、趙紫陽系の影響を減少させながら「改革・開放」を実行するという二律背反的な課題の解決を迫られていた。中央委員を一度退任した3名の人物が復帰するという異例の事態が発生した主な原因は、ここに求められよう。復帰した中央委員のうち2名（劉華清と張震）が解放軍の長老指導者だったこともこの推測を裏づける。政治的安定に対する自信が増大した15全大会で中央委員中の新任が32.6%を占め、候補中央委員からの昇格組を含めると56.5%に達したのは、世代交代がますます重要な政治的課題になった表現であろう。

中央委員の世代交代の実態を検討するために、以下の表6から表8までを用意した。いずれも附表1から附表3にもとづいて、各党大会の中央委員を生年別に分類したものである。

表6、表7、表8を比較すると、世代交代はそれなりに進んできたといえる。最多の年齢層で見ると、12期中央委員では1916年から20年までに生まれた中央委員が40%弱を占めていた。ところが、13期中央委員では26年から30年までに生まれた中央委員が34%弱、14期中央委員では31年から35

表 6 12期中央委員の生年別分類

	総数 (209)	幹部 (163)	軍人 (46)	知識分子	工・農	少数民族 (14)	女性 (8)
～ 1900	2 (1.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1901 ～05	5 (2.4)	4 (1.9)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
1906 ～10	8 (3.8)	6 (2.9)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
1911 ～15	37 (17.9)	23 (11.0)	14 (6.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.4)	1 (0.5)
1916 ～20	83 (39.7)	61 (29.2)	22 (10.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
1921 ～25	38 (18.1)	34 (16.2)	4 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	2 (1.0)
1926 ～30	21 (10.0)	20 (9.6)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (1.9)	0 (0.0)
1931 ～35	7 (3.3)	7 (3.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	2 (1.0)
1936 ～40	6 (2.9)	6 (2.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	1 (0.5)
1941 ～45	2 (1.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1946 ～50	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1951 ～55	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1956 ～60	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1961 ～	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

表7 13期中央委員の生年別分類

	総数 (175)	幹部 (143)	軍人 (32)	知識分子	工・農	少数民族 (16)	女性 (10)
～ 1900	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1901 ～05	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1906 ～10	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1911 ～15	4 (2.3)	3 (1.7)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)
1916 ～20	9 (5.1)	8 (4.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)
1921 ～25	34 (19.4)	26 (14.9)	8 (4.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.7)
1926 ～30	59 (33.8)	48 (27.4)	11 (6.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.3)	1 (0.6)
1931 ～35	45 (25.7)	38 (21.7)	7 (4.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (2.9)	4 (2.3)
1936 ～40	12 (6.9)	10 (5.7)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)	2 (1.1)
1941 ～45	10 (5.7)	8 (4.6)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.7)	0 (0.0)
1946 ～50	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1951 ～55	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1956 ～60	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1961 ～	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

表 8 14期中央委員の生年別分類

	総数 (189)	幹部 (145)	軍人 (44)	知識分子	工・農	少数民族 (14)	女性 (12)
～ 1900	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1901 ～05	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1906 ～10	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1911 ～15	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1916 ～20	2 (1.1)	0 (0.0)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1921 ～25	10 (5.3)	8 (4.2)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)
1926 ～30	62 (32.8)	43 (22.8)	19 (10.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.6)	2 (1.1)
1931 ～35	77 (40.7)	62 (32.8)	15 (7.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (3.2)	5 (2.6)
1936 ～40	22 (11.6)	18 (9.5)	4 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)	3 (1.6)
1941 ～45	14 (7.4)	13 (6.9)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.6)	0 (0.0)
1946 ～50	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1951 ～55	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1956 ～60	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1961 ～	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

年までに生まれた中央委員が40%強を占めている。最多年齢層では、12期中央委員と13期中央委員の間で10年分、13期中央委員と14期中央委員の間で5年分若返ったことになる。この傾向は、第2位と第3位の年齢層を加えて計算しても変わらない。この場合、12期中央委員では1911年から1925年までの出生者、13期中央委員では1921年から1935年までの出生者、14期中央委員では1926年から1940年までの出生者が70%後半から80%台前半の間を占めている。前者の若返りの方が大きかったのは、12全大会で中央委員に選任された毛沢東時代に冷遇あるいは迫害されていた年長の実力者が13全大会までに引退したという事情が考えられる。

ただ、問題点も指摘できる。この10年間に選出された中央委員の下限は1950年までに生まれたグループなのである。したがって、13期中央委員の年齢分布が比較的左右対称の形をとるの対して、14期中央委員のそれは若年層の方で急激に減少するいびつな形を示している。要するに、1951年以降に生まれた人々から選出された中央委員はまだいない。このグループは「文化大革命」期の紅衛兵体験者、あるいは造反闘争参加者だろう。彼らに対する一種の警戒心が指導部にはあるのかもしれない。今後の若返りがこのグループを取りこんで進むのか、それとも彼らを飛ばして進むのか、注目すべきところだろう。

世代交代の問題を多少異なる角度から検討するために、各中央委員を入党年次により分類した表9から表11を以下に掲げる。各中央委員の入党年次は「党歴」（共産黨員としての活動歴）の起点として中国では重要な意味を持っているはずである。

以下3つの表を比較した結果を整理しよう。

まず、12期中央委員のうち入党年次で最多のグループは1936年から40年までの入党組、それに次ぐのは31年から35年までの入党組である。いずれも戦時下に中共に入党した人々である。特に前者は抗日民族統一戦線が結成される前後の中共が黨員を大幅に拡大した時期にあたる。これに対して、13期中央委員と14期中央委員のうち入党年次で最多のグループは1946年か

表9 12期中央委員の入党年別分類

	総数 (208)*	幹部 (162)*	軍人 (46)	知識分子	工・農	少数民族 (14)	女性 (8)
1921 ～25	7 (3.4)	6 (2.9)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
1926 ～30	21 (10.1)	8 (3.8)	13 (6.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1931 ～35	41 (19.7)	22 (10.6)	19 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	1 (0.5)
1936 ～40	90 (43.3)	78 (37.5)	12 (5.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	2 (1.0)
1941 ～45	12 (5.8)	12 (5.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
1946 ～50	12 (5.8)	11 (5.3)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.4)	0 (0.0)
1951 ～55	12 (5.8)	12 (5.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.4)	1 (0.5)
1956 ～60	10 (4.8)	10 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
1961 ～65	3 (1.4)	3 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	1 (0.5)
1966 ～70	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1971 ～75	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1976 ～80	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1981 ～	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

*入党年不明の1名を除く

表10 13期中央委員の入党年別分類

	総数 (175)	幹部 (143)	軍人 (32)	知識分子	工・農	少数民族 (16)	女性 (10)
1921 ～25	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1926 ～30	2 (1.1)	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1931 ～35	4 (2.3)	4 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1936 ～40	25 (14.3)	19 (10.9)	6 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	1 (0.6)
1941 ～45	29 (16.6)	19 (10.9)	10 (5.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	1 (0.6)
1946 ～50	52 (29.7)	45 (25.7)	7 (4.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (2.9)	1 (0.6)
1951 ～55	26 (14.9)	22 (12.6)	4 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.3)	4 (2.3)
1956 ～60	16 (9.1)	14 (8.0)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	2 (1.1)
1961 ～65	18 (10.3)	16 (9.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)	1 (0.6)
1966 ～70	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)
1971 ～75	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.6)	0 (0.0)
1976 ～80	1 (0.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1981 ～	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

表11 14期中央委員の入党年別分類

	総数 (189)	幹部 (145)	軍人 (44)	知識分子	工・農	少数民族 (14)	女性 (12)
1921 ～25	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1926 ～30	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1931 ～35	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1936 ～40	5 (2.6)	3 (1.6)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
1941 ～45	24 (12.7)	14 (7.4)	10 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
1946 ～50	60 (31.7)	42 (22.2)	18 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.6)	3 (1.6)
1951 ～55	36 (19.0)	32 (16.9)	4 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.1)	4 (2.1)
1956 ～60	29 (15.3)	25 (13.2)	4 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)	1 (0.5)
1961 ～65	24 (13.7)	20 (10.6)	4 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)	2 (1.1)
1966 ～70	3 (1.6)	3 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
1971 ～75	3 (1.6)	3 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)
1976 ～80	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
1981 ～	2 (1.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)

ら50年までの入党組である。それだけ世代交代が進んだことになる。また、各党大会ともに「文化大革命」期の入党者で中央委員に選出された者が皆無、またはきわめて少ない点でも共通している。13期および14期中央委員でわずかに存在する「文化大革命」中の入党者は、「少数民族」などの特別な理由がある者に限られていると考えられる。このことから造反闘争参加者に対する警戒心の存在を推定することができる。さらに、「幹部」と「軍人」を比較すると、特に建国以前については後者の方が若くして入党する傾向が顕著である。「軍人」の場合には、イデオロギー的な理解度などよりも積極的な戦闘性が優先的に評価されるからであろう。なお、入党の際の年齢は建国以前の方が建国以降よりも全般的に若い傾向がうかがえる。

13期中央委員と14期中央委員に限って入党年次について比較すると興味深い問題が判明する。どちらも、すでに指摘したように、入党年次で最多のグループは1946年から50年までの入党組なのである。5年を隔てたこの2つの党大会については、大きな世代交代がなかったことになる。世代交代が行われたとすれば、14期中央委員で45年以前の入党組を13期中央委員より減少させたかわりに51年以降の入党組を増加させたためである。革命闘争をほとんど体験していない世代への警戒心、そして前記した「文化大革命」参加者への警戒心が世代交代を遅くしていると思われる。

4. 小結および残された課題

本稿では、3回の党大会で選出された延べ573名の中央委員のどちらかと言えば変更しようのないデータ（例えば、性別、生年のような）を中心に検討を進めてきた。その際に個々に指摘した論点についてあらためて繰り返す必要はないであろう。全体として、各期の中央委員の構成は選出された時期の中国の政治的・社会的情勢、共産党指導部の意向、共産党の基本方針などにかかなり左右されてきたことを確認できた。また、ここで対象

としたデータについても、初歩的な統計的処理を加えることにより少なくとも新たな問題領域の所在を明らかにできたと考えている。各期の中央委員の特徴をさらに解明するには、まず職務の変遷（それは附表の「現職」、「前職1」、「前職2」の項目で表わされている）や学歴を視野に入れた分析が必要であろう。それには附表で扱った各項目間のいっそうの関連づけに取り組むべきであろう。

注

- (1) 筆者はかつて、「中共13全大会における人事政策の分析」、『国際問題』第335号（1988年2月）17～28頁、「中共一四全大会の政治的意義」、『国際問題』第394号（1993年1月）2～17頁、において13全大会と14全大会の閉幕直後に中央委員の構成的特徴の分析を個別的に試みたことがある。本稿はその際に使用したデータを補充するとともに、時系列的な方向へいっそう拡張させるための努力でもある。
- (2) 本稿に関連の深い日本におけるこれまでの代表的な研究成果として、毛里和子『現代中国政治』（名古屋大学出版会、1993年）、中川昌郎『中国指導層の統計的分析』（慶應通信、1996年）、などがあげられる。
- (3) 例えば、全国人民代表大会常委会弁公庁研究室編『中華人民共和国人民代表大会文献資料匯編』（中国民主法制出版社、1991年）、857～858頁、参照。
- (4) 内蒙古自治区党委弁公庁・組織部編著『党的代表大会工作』（人民出版社、1991年）、53、77、133頁。
- (5) 同前。
- (6) 佐々木智弘「共産党新指導部の成立」、中居良文編『中国・過渡期の政治経済』（アジア経済研究所、1998年3月）、24頁。
- (7) 前掲拙稿「中共13全大会における人事政策の分析」、24頁、では中央委員中の「軍人」の比率を17%と算出した。これは、職歴不明の中央委員（そのほとんどは軍人）を除外して計算したために生じた結果である。したがって、本稿の18.3%の方がより正確である。

附表 1：中共12期中央委員のデータ一覧

姓 名	選任 性別	民 族	原 籍	生 年	入 党	現 職	前 職 1	前 職 2	属 性	備 考
1 于明涛	再 男		河北省深县	1918年	1938年9月	中共河南省委書記・省長(83.9)	中共陝西省委書記・省長(77)	中共湖南省委書記(71)	幹部(地方)	
2 于洪恩	新 男		山東省莒县	1927年	1948年	煤炭工業部副部長(81.12)	中共鶴崗市委書記	黑龍江省煤炭管理局副局長	幹部(国家)	
3 万 達	再 男		河南省林県	1918年	1937年	湖南省人大常委会主任(79.12)	中共湖南省委書記(77)		幹部(地方)	
4 万里	再 男		山東省莱平県	1916年2月	1936年5月	國務院副總理(80.4)	中共湖南省委書記(77)	铁道部部长	幹部(国家)	
5 万海峰	再 男		河南省光山県	1920年	1937年10月	成都軍区政治委員(82.11)	北京軍区副司令員	北京軍区政治委員	幹部(地方)	
6 馬元瑞	再 男		陝西省子洲県	1912年11月	1928年	陝西省人大常委主任(79.12)	中央党校副校长(77.12)	国家計划委副主任(77.6)	幹部(地方)	
7 馬興元	再 男		山西省昔陽県	1917年	1939年	福建省省長(79.12)	福建省革命委員会副主任(75.6)	中共広東省委第1書記(78.12)	幹部(党中央)	
8 習仲勳	(再) 男		陝西省富平県	1913年10月16日	1928年4月	中央書記処書記(81.6)	全人大常委委副委員長(80.9)		幹部(党中央)	
9 王 芳	新 男		山東省新泰県	1920年9月	1938年4月	中央書記処書記(83.3)	(浙江省内で昇進)	中共広東省委第1書記(78.12)	幹部(地方)	64年少将
10 王 猛	再 男		河北省塩山県	1920年	1938年	広州軍区政治委員	国家体育運動委主任(77.3)	武漢軍区副政治委員(75.1)	軍人/幹部?	
11 王 麓	再 男		湖南省瀏陽県	1908年4月	1927年5月	中共中央軍委常委・中共中央党校校長(82.5)	財政部副部長(77)	財政部門で昇進	幹部(国家)	
12 王西乾	新 男		河北省魏県	1925年6月	1940年1月	財政部部長(80.8)	中央政法委副秘書長(80)		幹部(国家)	戦時でカマフラ工作
13 王漢斌	新 男		福建省惠安県	1925年8月	1941年2月	全人大常委副秘書長(82.11)			幹部(地方)	
14 王光中	新 男		江蘇省沛県	1921年	1937年	遼寧省副省長(80.1)			幹部(地方)	
15 王光宇	再 男		安徽省霍丘県	1919年	1938年	中共安徽省委副書記(83.3)	安徽省革命委員会副主任		幹部(地方)	
16 王兆国	新 男		河北省豊潤県	1941年7月	1965年12月	共青団中央第1書記(82.11)			幹部(大衆団体)	
17 王全国	新 男		湖北省襄陽県	1919年	1938年	中共湖北省委常務書記(82.11)	広東省副省長(78)	国家計划委副主任(77)	幹部(地方)	
18 王任重	再 男		河北省景県	1917年1月	1933年	全人大常委副委員長(83.6)	中共中央宣伝部長(80)	副總理(78末)	幹部(国家)	
19 王克文	新 男		山西省沁県	1917年	1938年	中共山西省委副書記(83.3)	中共山西省委書記(78.4)		幹部(地方)	
20 王誠漢	新 男		湖北省黄安県	1917年	1933年	成都軍区司令員(82.10)			軍人	55年少将
21 王恩茂	再 男		江西省永新県	1913年	1930年秋	中共新疆区委員第1書記(81.11)	吉林省革命委員会主任(77.3)		幹部(地方)/軍人?	55年少将
22 王朝文	新 男		遼寧省遼陽市(県?)	1927年	1962年	全国総工会副主席(81)	中共哈爾濱市委副書記(80)		幹部(大衆団体)	
23 王朝文	新 男		貴州省黄平県	1930年10月	1961年7月	中共貴州省委書記(80.9)			幹部(地方)	
24 王鶴寿	再 男		河北省唐県	1909年	1925年	中共中央紀検委常務書記(82.9)	中共中央紀検委副書記(78.12)		幹部(党中央)	78.12復権; 85年引退
25 韋国清(原名: 韋邦寬)	再 男		広西省貴陽県	1913年9月2日	1931年2月	全人大常委副委員長(83.6)	總政治部主任(77.9)	中共広東省委第1書記(75)	幹部(国家)/軍人?	55年上將; 85年引退
26 九大忠	再 男		河南省光山県	1918年	1934年	広州軍区司令員(82.11)	中共内蒙古区委第1書記(78)		軍人	55年少将
27 毛致用	再 男		湖南省岳陽県	1929年11月	1952年12月	中共湖南省委書記(77.10)	湖南省革命委员会主任		幹部(地方)	
28 烏蘭夫(漢名: 雲澤)	再 男		内蒙古・土默特左旗	1906年12月23日	1925年9月	国家副主席(83.6)	全人大常委副委員長	中共中央統戦部部長	幹部(国家)/軍人?	55年上將; 88.12死去; 布赫は息子
29 方 毅	再 男		福建省廈門市	1916年2月	1931年	国家委員(82.5)・国家科技委主任(78.3)	中国科学学院院长(79.7)		幹部(国家)	
30 巴 桑	再 男		西藏・貢嘎	1937年	1959年	中共西藏区委書記	西藏自治区政府副主席		幹部(地方)	
31 鄧力群	新 男		湖南省桂東県	1915年	1936年	中央書記処書記(82.9)・中央宣伝部部長(82.4)	中央弁公庁副主任(81.4)		幹部(党中央)	
32 鄧小平	再 男		四川省広安県	1904年8月22日	1924年	中央顧問委主任(82.9)・中央軍委主席(81.6)	中共中央副主席・副總理・中央軍委副主席	中共中央書記	幹部(党中央)	周恩來夫人
33 鄧穎超	再 女		河南省光山県	1904年2月4日	1925年	全人大常委副委員長	中共中央紀検委第2書記	中共中央紀検委第2書記	幹部(国家)	核開発担当; 86.7死去
34 鄧稼先	新 男		安徽省懷安県	1924年	1956年	国防科工委委員長	核武器研究設計院院長		幹部(地方)	烏蘭夫の息子
35 布 赫(別名: 雲曙光)	新 男		内蒙古・土默特左旗	1926年	1942年	内蒙古自治区政府主席(83.6)	中共内蒙古区委副書記		軍人/幹部?	55年上將
36 葉 飛	再 男		福建省南安県	1914年5月	1932年	全人大常委副委員長(83.6)	海軍司令員(80.2)	交通部部長(75)	軍人	55年元帥; 85年引退; 86.10死去
37 葉劍英(原名: 葉宜偉)	再 男		広東省海豊	1897年4月28日	1927年	全人大常委委員長(78.3)	国防部部长(75)		軍人	
38 田紀霖	新 男		山東省肥城県	1929年6月	1945年5月	副總理; 秘書長(83.6)	國務院副秘書長(81.8)	四川省財政庁長(79.12)	幹部(国家)	

姓名	性别	民族	籍贯	生年	入党	现职	前职1	前职2	属性	备注
39 白樟材	再	男	陕西省蒲城县	1916年	1935年1月	中共江西省委第1书记(82.9)	江西省省长		幹部(地方)	85年引退
40 司馬羲 艾買提	再	少数民族(ウイグル族)	新疆省(现自治区)策勒	1935年9月	1953年8月	新疆维吾尔自治区政府主席(79.9)			幹部(地方)	
41 邢燕子	再	男	河北省(现天津市)宝坻县	1941年	1960年	中共天津市委书记			幹部(地方)	
42 呂培俊	新	男	江苏省洪泽县	1928年8月	1944年11月	中国人民银行行长(82)	财政部副部长(78)		幹部(国家)	55年少停
43 朱雲謙	新	男	江西省莲花县	1919年	1935年	总政治部副主任(78.10)	广州军区空军政治委员		幹部(国家)	核開發關係者
44 朱光亞	再	男	湖北省襄陽縣(现武汉市)	1924年12月	1939年4月	国防科工委科技委副主任(82.4)	国防科工委副主任	新華通訊社社長(72.9)	幹部(国家)	85年引退
45 朱稼之	再	男	江苏省江陰县	1916年	1936年	文化部部長(82.5)	中央宣傳部部長(77.12)		幹部(党中央)	上海市出生
46 喬石	新	男	浙江省定海县	1924年12月	1940年8月	中央對外聯絡部部長(82.4)	中央對外聯絡部副部長(78.3)		幹部(地方)	
47 喬曉光	再	男	河北省大名县	1918年	1934年	广西壮族自治区政協主席(79.12)	広西區革命委主任		幹部(地方)	
48 任仲夷	再	少数民族(彝族)	四川省冕寧县	1931年	1949年	国家民族事務委第1副主任(83)			幹部(国家)	
49 伍仲夷	再	男	河北省威县	1914年	1936年	中共広東省第1書記(80.11)	中共広東省委書記(78.9)	中共黑龍江省委書記(67)	幹部(地方)	
50 華国鋒	再	男	山西省交城县	1921年2月	1938年10月	中共中央委員(69.4)	中共中央主席、國務院總理	副總理、公安部長	幹部(党中央)	55年少停
51 向守志	新	男	四川省宜賓县	1917年	1936年	南京军区司令員(82.11)	南京军区副司令員(77.10)	第二炮兵司令員(76.5)	軍人	55年少停
52 劉慶	再	男	湖北省孝感县	1915年	1932年	軍事科学院副院長(80.1)	新疆军区司令員(77.7)	瀋陽军区副司令員(73.5)	軍人	55年引退
53 劉正威	新	男	河南省新鄉县	1930年2月	1952年9月	中共河南省南陽地委書記			幹部(地方)	
54 劉華清	新	男	湖北省大悟县	1916年10月	1935年10月	海軍司令員(82.10)	副總參謀長(80.1)		軍人	55年少停；85年引退
55 劉志堅	再	男	湖南省平江县	1912年	1931年	軍政治学院院长	昆明军区第1政治委員		軍人	55年中停；85年引退
56 劉復之	新	男	広東省陽江縣	1917年	1938年	司法部部長(82.5)	外交部副部長(76.7)		軍人	64年少停
57 劉振華	再	男	山東省泰安縣	1921年	1938年	瀋陽军区政治委員(82.10)	外交部副部長(76.7)	四野系	幹部(国家)	
58 江沢民	再	男	江苏省扬州市	1926年8月	1946年4月	電子工業部部長(83.6)	外交部副部長(76.7)	國家進出口管理委副主任	幹部(国家)	55年少停
59 江擁輝	再	男	江西省瑞金市(県?)	1917年	1935年	福州军区司令員(83.11)	瀋陽军区副司令員		幹部(地方)	
60 池必朝	再	男	山西省平定县	1918年	1937年	中共貴州省委第1書記(80.6)	中共貴州省委第2書記(78)	中共內蒙古区委第2書記(75)	幹部(地方)	
61 安平生	再	男	陕西省周至县	1917年	1937年	中共雲南省委第1書記(77.2)	中共広西区委第1書記(75)	広西區革命委副主任(68)	幹部(地方)	85年引退；91年除名
62 許家屯	再	男	江蘇省如皋县	1916年	1938年4月	中共江蘇省委第1書記(77.3)	(江蘇省内で昇進)		幹部(地方)	
63 孫大光(旧名:孫世籍)	再	男	安徽省壽县	1917年	1934年	地質部部長(82.5)	国家地質總局局長(75.12)		幹部(国家)	85年引退
64 陰法唐	新	男	山東省肥城縣	1922年	1938年6月	中共西蔵区委第1書記、西蔵军区第1政治委員(80)	濟南军区副政治委員(79.10)		軍人	
65 戴東生	新	男	浙江省杭州府	1918年	1960年	中国科学院副院長(81.5)	上海科技大学副校長(80.6)		幹部(地方)	化学者
66 蘇鋼	再	男	山東省萊蕪縣	1920年	1939年	贵州省省长(80.1)	中共贵州省委书记(78.3)	中共湖南省委秘書長(63.7)	幹部(地方)	
67 蘇焱然	再	男	四川省資中县	1913年	1937年1月	中共山東省委書記(82)	山東省省长(79.12)	中共湖南省委秘書長(63.7)	幹部(地方)	
68 李銳	再	男	湖南省平江县	1917年	1937年	中共中央組織部青年幹部局局長(83.2)	国家能源委副主任	電力工業部副部長	幹部(党中央)	毛沢東の秘書；85年引退
69 李鵬	再	男	四川省成都市	1928年10月	1945年11月	水利電力部副部長(82.3)	電力工業部部長(81.3)	電力工業部副部長(79)	幹部(地方)	上海市出生
70 李力安	再	男	山西省五台县	1920年	1935年	中共黑龍江省委書記(83.3)	中共黑龍江省委第2書記(81.12)		幹部(地方)	
71 李子奇	再	男	陕西省神木县	1923年	1937年	甘肅省副省長(82.11)			幹部(地方)	
72 李立功	再	男	山西省交城县	1925年	1940年	中共山西省委常務書記(81.11)	中共北京市委書記(78.9)		幹部(地方)	
73 李東治	再	男	山西省平陸县	1917年	1938年	冶金工業部部長(82.5)	中共鞍山市委第1書記		幹部(国家)	
74 李先念	再	男	湖北省黄安縣	1909年6月23日	1927年	国家主席(83.6)	中共中央副主席(77.8)		幹部(国家)	
75 李啓明	再	男	山西省神池县	1915年	1932年	中共雲南省委第2書記			幹部(地方)	85年引退
76 李學智	再	男	山東省臨清县	1923年	1938年	中共寧夏区委第1書記(79.5)	(寧夏区内で昇進)		幹部(地方)	

姓名	選任性別	民族	原籍	生年	入党	現職	前職1	前職2	属性	備考
77 李夢華	新男		河北省平山縣	1922年	1938年	国家体育運動委员会主任(81.9)	中国オリンピック委員会副委員長(80.1)	(共青団系?)	幹部(国家)	
78 李緒鄂	新男		湖北省漢陽縣	1928年	1955年	航天工業部副部長(82.5)	第7機械工業部副部長		幹部(国家)	
79 李森茂	新男		河北省(現天津市)寧河縣	1929年12月	1949年	铁道部副部長(82.5)			幹部(国家)	
80 李瑞霖	新男		河北省(現天津市)宝坻縣	1934年9月	1959年9月	天津市市長(82.5)			幹部(地方)	
81 李錕銘	新男		河北省承德縣	1926年2月	1948年3月	城牆建設環境保護部部長(82.5)	電力工業部副部長	全國总工会常委(78.10) 水利電力部副部長	幹部(国家)	
82 李溪峰	新男		河南省豫東	1924年	1939年	中央陝西省委書記(83.4)			幹部(地方)	
83 李德生	新男		山東省新泰縣	1916年	1932年	瀋陽軍区司令員(73.12)	中共中央副部長、北京軍区司令員(73.8)		軍人	85年引退
84 李耀文(原名:張錫坤)	新男		山東省萊城縣	1919年	1937年	海軍政治委員(80)			軍人	55年少將
85 楊波	新男		山東省萊城縣	1920年	1941年	海軍政治委員(80)	濟南軍区政治委員		幹部(国家)	
86 楊勇	新男		湖南省瀏陽縣	1913年	1930年	中央軍委副秘書長(80.1)	副總參謀長(77.9)		軍人	55年上將; 81.197去
87 楊堤	新男		江蘇省(現上海市)青浦縣	1924年	1939年	上海市副市長、市公安局局長	(上海市内で昇進)		幹部(地方)	55年上將
88 楊成武	新男		福建省長汀縣	1914年10月8日	1930年5月	副總參謀長(74.12)、福州軍区司令員(77.11)			幹部(地方)	
89 楊汝岱	新男		四川省仁壽縣	1926年12月	1952年8月	中央四川省委書記(83.2)	四川省副省長(79.12)	四川省革委會副主任	幹部(地方)	
90 楊易辰	再男		遼寧省法庫縣	1914年	1936年9月	最高人民檢察院檢察長(83.6)	中央軍委常委、秘書長(81.7)	中共中央办公厅主任	幹部(国家)	
91 楊尚昆	再男		四川省達縣縣	1907年	1928年	中央軍委常務副部長、秘書長(82.9)	昆明軍区司令員(79.1)	武漢軍区司令員(73)	軍人	
92 楊得志	再男		湖南省醴陵縣(現株洲市)	1911年1月3日	1928年10月	總參謀長(80.2)、中央軍委副秘書長(82.9)	寧夏軍区副司令員(77.12)		軍人	
93 楊靜仁	再男	少数民族(回族)	甘肅省蘭州府	1919年9月	1937年	国家民族事務委员会主任(78.3)、中央統戰部部長(82.4)	中央办公厅副主任	八路军115師系	軍人	85.89死去
94 楊德中	新男		陝西省清澗縣	1923年10月	1939年9月	中央办公厅第一副主任、警衛局局长(80)			幹部(地方)	85年引退
95 蕭華	再男		江西省興國縣	1916年	1930年7月	蘭州軍区第一政治委員(77.6)	軍事科學院第2政治委員		幹部(地方)	
96 蕭兼	再男		河北省清河縣	1924年	1937年	中央西北区党委常務書記(82.2)	広西壮族自治区政府副主席(79.12)		軍人	55年少將; 85年引退
97 蕭全夫	新男		安徽省金寨縣	1916年	1933年	島魯木齊軍区司令員	瀋陽軍区副司令員(89.10)		幹部(地方)/工人?	79年全国労働模範
98 吳全清	再男		山東省濰縣	1937年	?	大慶鑽井二公司工会主席			幹部(地方)/工人?	
99 吳學謙	新男		上海市	1921年12月	1939年5月	外交部部長(82.11)	中聯部副部長(78.4)	共青団中央国際部部長	幹部(国家)	
100 何康	新男		福建省福州市	1923年2月	1939年	農牧漁業部副部長(82.5)	国家農業委員会主任(79.3)		幹部(国家)	
101 何東昌	新男		浙江省諸暨縣	1923年	1947年	教育部部長(82.5)	清華大学副校長		幹部(国家)	
102 余秋里	再男		江西省吉安縣	1914年10月	1931年5月	總政治部主任(82.9)	副總理、国家計委副主任(75.1)	石油工業部部長	幹部(国家)	
103 谷牧	再男		山東省萊城縣	1914年9月	1932年	國務委員(82.5)	国家基本建設委员会主任(73.6)		幹部(国家)	
104 沈園	新男		浙江省桐廬縣	1919年	1937年12月	中国民航總局局長(77)	中国民航總局副局長		幹部(地方)/軍人?	87.7解任
105 沈因洛	新男		江蘇省吳縣	1920年	1938年	中共湖北省委書記(82.11)	武漢鋼鐵公司經理	広州軍区政治部副主任	幹部(地方)/軍人?	
106 宋平	再男		山東省昌樂縣	1917年4月	1937年12月	國務委員、国家計委副主任(83.6)	中共甘肅省委第一書記(77.6)		幹部(国家)	周恩來の政治秘書経験
107 宋任窮	再男		湖南省醴陽縣	1909年7月11日	1926年12月	中共中央組織部部長(78.12)	第7機械工業部部長(77.10)		幹部(党中央)	55年上將 造船工学
108 張壽	新男		江蘇省常熟市	1930年	1949年	国家計委副主任(83.7)	上海交通大學副校長		幹部(国家)	55年中將; 85年引退
109 張震	再男		湖南省平江縣	1914年10月	1930年7月	副總參謀長(80.1)	總後勤部部長(78.2)	三野系	軍人	55年少將
110 張廷堯	再男		福建省沙縣	1918年	1936年	空軍司令員(77.4)	空軍政治委員(76)		幹部(地方)	
111 張再旺	新男		江蘇省南京市	1918年	1940年	天津市人大常委主任(83.4)	中共西藏区委常委(77.11)		幹部(地方)	
112 張勁夫	再男		安徽省肥東縣	1914年	1935年12月	國務委員、国家經濟委主任(82.5)	安徽省省長(79.12)		幹部(国家)	55年上將
113 張愛萍	再男		四川省達縣縣	1910年	1938年	國務委員、國防部部長(82.11)	副總參謀長(77.10)		軍人	55年少將; 85年引退
114 張鈺秀	再男		江西省永新縣	1915年	1934年	昆明軍区司令員	濟南軍区副司令員		軍人	

姓名	性别	民族	原籍	生年	入党	现职	前职1	前职2	属性	备注
115 張曙光	男		河北省魏縣	1922年	1938年2月	河北省省長(83.5)	中共張家口地委第1書記(81)	中共雲南省文山州委第1書記	幹部(地方)	
116 陳雲彬	男		江蘇省(現上海市)青浦縣	1905年	1925年	中央規律檢查委員1書記(78.12)	中共中央副主理(78.12)		幹部(党中央)	61年少將
117 陳彬	男		四川省通江縣	1919年	1938年	國防科技工委主任(82.5)	國家計劃委副主任		幹部(地方)	
118 陳肅	男		黑龍江省肇川縣	1917年	1938年	黑龍江省省長(79.12)	黑龍江軍委副主任(78.1)		幹部(地方)	55年少將
119 陳仁洪	男		江西省鉛山縣	1917年	1932年	濟南軍區政治委員	北京軍區副政治委員		幹部(党中央)	
120 陳邦強	男		福建省上杭縣	1916年3月20日	1931年	中央書記處書記(82.9)·中央政法委書記(83)	中共湖北省委第1書記(78)	中共雲南省委書記	幹部(地方)	
121 陳錦達	男		江蘇省淮陰縣	1916年	1937年	中共天津市委第1書記	中共浙江省委書記	中共阜平縣委書記	幹部(地方)	
122 陳希同	男		四川省安岳縣	1930年6月	1949年12月	北京市市長(83.3)	北京市副市長(79.12)	全國供銷合作社總社主任	幹部(地方)	85年引退
123 陳國棟	男		江西省南昌市(集?)	1911年	1932年	中共上海市委第1書記(80.4)	糧食部部長(79.6)		幹部(地方)	
124 陳福茂	男		河北省(現天津市)武清縣	1936年	1939年	北京鐵路分局副局長(82)	北京鐵路總工會第1副主席		幹部(國家)/工人?	
125 陳燕華	女		浙江省青田縣	1921年6月	1938年6月	國務委員(82.5)·對外經濟貿易部部長(82.3)	對外經濟聯絡部部長		幹部(國家)	
126 陳漢如	男		山東省博興縣	1918年3月	1937年	鐵道部部長(82.5)	遼寧省省長(80.1)		幹部(國家)	
127 林若	男		廣東省潮安縣	1924年	1945年5月	中共廣東省委書記(83.1)	中共遼江地委書記		幹部(地方)	85年引退
128 林乎加	男		山東省長島縣	1916年	1938年	農牧漁業部部長(82.5)	中共北京市委第1書記(78.10)		幹部(地方)	85年引退 在日教育歴あり
129 林麗蓮	女		台灣省台中市	1933年3月	1963年2月	全國總聯副主席(78.9)·台灣同胞聯誼會會長(81)			幹部(大衆團體)	
130 羅青長	男		四川省蒼溪縣	1918年	1936年	國務院副秘書長	中央調查部部長(78.9)		幹部(國家)	
131 周惠	男		江蘇省淮陰縣	1919年	1938年	中共內蒙古區委第1書記(78.10)	交通部副部長		幹部(地方)	78.12中委增補
132 周子健	男		安徽省臨泉縣	1914年	1936年	武漢軍區司令員	第1機械工業部部長(77.11)		幹部(地方)	
133 周世忠	男		湖北省黃安縣	1918年	1935年	武漢軍區司令員	通信兵部主任		軍人	55年少將
134 周建南	男		江蘇省宜興縣	1917年	1940年	機械工業部部長(82.5)	國家進出口管理委副主任		幹部(國家)	55年少將
135 鄭三生	男		江西省石城縣	1916年	1934年	濟南軍區副司令員	高魯木育軍區副司令員		軍人	
136 鄭拓彬	男		福建省連城縣	1924年2月	1938年	對外經濟貿易部第1副部長(82.3)	對外貿易部部長(81.9)	第1機械工業部副部長	幹部(地方)	
137 項南	男		陝西省渭南縣	1918年	1941年	中共福建省委第1書記	農業機械部副部長		幹部(國家)	85年引退
138 趙守一	男		陝西省渭南縣	1917年	1936年	國家勞動人事部部長(82)	中央宣傳部副部長		軍人	
139 趙興元	男		山東省濰城縣	1925年	1940年	黑龍江省軍區政治委員(73.5)	(四野系)		幹部(工人?)	79年全國勞動模範
140 趙志堅	男		江西省南昌市	1936年	1963年	南昌市長(83.3)	江西省總工會副主任(73)	江西卜ラウター一廠工人	幹部(國家)	
141 趙蒼璧	男		陝西省清澗縣	1916年	1935年	公安部部長(77.11)·武裝警察部隊政治委員(88.4)	四川省副省長		軍人	
142 趙南超	男	少數民族(朝鮮族)	吉林省永吉縣	1926年4月15日	1947年2月	吉林省委副政治委員(77)	青海省副省長(81.10)		幹部(地方)	
143 趙海峰	男		河北省魏縣	1921年	1938年	中共青海省委書記(81)	中共四川省委第1書記(75.12)	中共廣東省委第1書記(74.4)	幹部(國家)	
144 趙榮陽	男		河南省清縣	1919年10月17日	1938年2月	國務院總理(80.9)	紡織工業部部長(81)		幹部(党中央)	
145 郝建秀	女		山東省青島市(嶗山縣?)	1935年11月	1953年11月	中央書記處候補書記(82.9)·全國總聯副主席(79)	中共江蘇省委常務書記(80)		幹部(地方)	
146 胡宏	男		四川省重慶市	1918年	1938年	中共福建省委常務書記(82.7)	中共江蘇省委常務書記(80)		幹部(地方)	
147 胡繩	男		江蘇省蘇州市	1918年1月	1938年	中共福建省委常務書記(82.7)	中共江蘇省委常務書記(80)		幹部(党中央/知識分子?)	
148 胡立教	男		江西省吉安縣	1914年	1930年	中共中央黨史研究室主任(82.5)	河南中央文獻研究室副主任(81.4)		幹部(地方)	78.12增補
149 胡喬木	男		江蘇省塩城縣	1912年	1932年夏	上海市委常務書記(80.2)	河南中央文獻研究室副主任(81.4)		幹部(党中央)	
150 胡啓立	男		陝西省榆林縣	1929年10月	1948年4月	中央書記處書記(82.9)	中共中央黨史研究室主任(82.5)	天津市市長(80.6)	幹部(党中央)	
151 胡耀邦	男		湖南省瀏陽縣	1915年11月20日	1933年9月	中共中央總書記(80.2)	中共中央黨史研究室主任(82.5)	中共中央秘書長(79.1)	幹部(党中央)	
152 柳林	男		山東省文登縣	1918年	1938年	中共江蘇省委第2書記(82)	(江蘇省內)昇進		幹部(地方)	

姓名	選任	性別	民族	原籍	生年	入党	現職	前職1	前職2	属性	備考
133 饒興礼	再	男	漢族	湖北省清水県	1925年	1951年	湖北省人大常委副主任(80.1)	(湖北省内で昇進)	幹部(地方)		
154 洪学智	(再)	男	漢族	河南省(現安徽省)南城县	1913年2月	1939年	中央军委副秘书长(82.11)	総務部部長(80.3)	国防工業弁公室主任(77.9)	軍人	55年上將、79年増補、85年引退
155 姚依林	新	男	漢族	山西省昔陽県	1921年	1937年	外交部副部長(82.12)	駐フランス大使(80.4)	駐エジプト大使(77.7)	幹部(国家、外事)	
156 姚依林	再	男	漢族	安徽省貴池県	1917年9月	1935年11月	國務院副總理(79.7)、国家計划委主任(80.8)	(財貿部門)	第二砲兵副司令員(79)	幹部(国家)	
157 賀進恒	新	男	漢族	山東省濰州府	1919年	1938年	第二砲兵司令員(83.2)	第二砲兵副司令員(78.1)	第二砲兵參謀長	軍人	
159 賀敬之	新	男	漢族	山東省濰州府	1924年11月5日	1941年	中央宣伝部副部長(80.7)	文化部副部長(78.1)		幹部(党中央)	
160 秦仲達	新	男	漢族	貴州省赤水県	1919年	1936年	人民日報編輯(82.5)	化学工業部副部長	化学工業部副部長	幹部(党中央)	
161 秦基偉	新	男	漢族	山東省萊州府	1923年	1944年	化学工業部部長(82.3)	北京軍区第1政治委員(78.1)	成都軍区司令員(73.8)	軍人	55年中將
162 袁宝華	再	男	漢族	湖北省黃安県	1916年	1936年	北京軍区司令員(80.1)	国家経済委員会副主任(82.5)	国家経済委員会主任(81.3)	幹部(国家)	
163 袁榮臻	再	男	漢族	河南省南召県	1916年	1933年	中共中央軍委副主任(82.9)	全人大常委委員(75.1)	全人大常委委員(75.1)	軍人	55年元帥
164 莫文祥	新	男	漢族	四川省江津県	1899年	1923年	中共中央軍委副主任(82.9)	第三機械工業部副部長(79)	第三機械工業部副部長(79)	幹部(国家)	国防工業關係者
165 熊地	再	男	少数民族(藏族)	山東省夏津県	1922年	1938年	航空工業部部長(82.5)	国家計划生省委副主任(81.5)	国家計划委副主任(73)	幹部(地方)	
166 顧秀蓮	再	女	漢族	西藏(現自治区)比如	1938年8月	1961年10月	中共西藏区委副書記(85.11)	水利部部長(79.2)	水利電力部部長(75.1)	幹部(地方)	
167 錢正英(原名:錢美瑤)	再	女	漢族	江蘇省南通市	1936年12月	1956年9月	中共江蘇省委書記(82.8)	水利部部長(79.2)	水利電力部部長(75.1)	幹部(国家)	
168 錢永昌	新	男	漢族	浙江省嘉興県	1923年7月	1941年9月	水利電力部部長(82.3)	中国远洋運輸總公司總經理(81.4)	(海洋交通專家)	幹部(国家)	
169 錢瑛	再	女	漢族	上海市	1933年	1953年	交通部副部長(82.5)			幹部(地方)	64年少将
170 錢木蘭、達瓦買提	再	女	少数民族(ウイグル族)	河南省南楽県	1916年	1937年	中共浙江省委第1書記(77.3)			幹部(地方)	
171 倪志錦	再	男	漢族	新疆・托克遜	1927年6月	1952年12月	中共新疆区委書記(78.4)	政治局委員(77.7)		幹部(地方)	55年元帥、85年引退
172 徐少甫	新	男	漢族	江蘇省(現上海市)川沙県	1933年5月	1958年10月	中華全国総工工会主席(78.11)			幹部(大衆団体)	
173 徐向前(原名:徐象謙)	再	男	漢族	江蘇省(現上海市)川沙県	1920年	1938年	中共遼寧省委書記(79.2)	副總理、国防部長(78.2)	(朝鮮内で昇進)	幹部(地方)	
174 高揚	新	男	漢族	江西省宜春県	1901年11月8日	1927年3月	中共中央軍委副主任(82.9)	國家能源委副主任(80.9)	國家能源委副主任(80.9)	幹部(国家)	85年引退
175 高揚	新	男	漢族	江蘇省泰興県	1923年	1944年	鞍山鋼鐵公司經理(82)	冶金工業部副部長(78.12)		幹部(国家)	
176 鄧力文	新	女	漢族	山東省濰州府	1918年	1937年	探采工業部部長(80.2)	駐フランス大使館参贊(77.9)		幹部(大衆団体)	
177 唐克	再	男	漢族	河北省威県	1920年	1938年	全國總聯第1書記(82.5)	冶金工業部部長(77.6)		幹部(国家)	
178 董華(原名:黃汝梅)	再	男	漢族	江蘇省宜城県	1918年	1938年	石油工業部部長(82.5)	國務委員、外交部部長(82.5)		幹部(国家、外事)	
179 董如真	再	男	漢族	河北省磁県	1913年	1936年	全人大常委委員(83.4)	湖北省委副部長(80.1)		幹部(地方)	
180 董新廷	再	男	漢族	江西省贛州府	1920年	1935年	湖北省委副部長(83.4)	成都軍区司令員(66)		軍人	55年中將、85年引退
181 崔乃夫	再	男	漢族	湖北省漢陽府	1920年	1932年	湖北省委副部長(83.4)	成都軍区司令員(66)		幹部(地方)	
182 崔月犁(原名:張立印)	再	男	漢族	河北省(現北京市)昌平県	1928年10月	1948年5月	裝甲兵司令員(75.9)	民政部副部長	贛州大学教授	幹部(国家)	
183 康世恩	再	男	漢族	河北省深県	1920年11月30日	1937年	民政部部長、中央軍委衛生運動委副主任(82)	衛生部副部長	衛生部副部長	幹部(国家)	石油派
184 康克清(原名:康桂秀)	再	女	漢族	河北省藁安県	1915年	1936年	國務委員(82.5)	國家能源委副主任(80.8)	石油工業部部長(75)	幹部(大衆団体)	朱德夫人
185 章沢	再	男	漢族	江西省吉安県	1911年9月	1931年	全國總聯主席(78.9)			幹部(地方)	
186 梁必業	再	男	漢族	遼寧省海城県	1919年	1938年	中共陝西省委常務書記(81)	軍規校副書記		軍人	55年中將、85年引退
187 梁靈光	再	男	漢族	江西省吉安県	1916年	1932年	總政治部副主任(75.1)	広州市市長(81.9)		幹部(地方)	
188 梁步庭	再	男	漢族	福建省永春県	1916年	1940年	広東省省長(83.4)	中共青海省委第1書記(80.6)		幹部(地方)	
189 彭冲	再	男	漢族	山東省嶧山県	1921年	1939年	山東省省長(83.5)	中共上海市委第1書記(79.1)		幹部(国家)	
190 彭真(原名:傅茂公)	再	男	漢族	福建省漳泉	1915年3月	1934年8月	全人大常委委員(80.9)	全人大常委委員(80.6)	中央政法委書記(83.2)	幹部(国家)	79.2復讐、79.9増補

姓名	選任性別	民族	原籍	生年	入黨	現職	前職 1	前職 2	屬性	備考
191 蔣南翔	(再)男		江蘇省宜興縣	1913年9月	1933年	中央黨校第1副校長(82.8)	教育部部長(79.2)		幹部(黨中央)	79.9擢補; 85年引退
192 韓先楚	再男		湖北省黃安縣	1913年	1930年	中央軍委常委(80.2)·全人大常委副委員長(83.6)	蘭州軍區司令員(74.1)		軍人	55年中將; 86.10死去
193 韓培信	新男		江蘇省響水縣	1921年	1940年	中共江蘇省委書記(81.11)	輕工業部副部長(78.6)		幹部(地方)	
194 覃心機	再男	少數民族(壯族)	廣西省東蘭縣	1915年	1931年	廣西壯族自治區政協主席(83.5)	廣西壯族自治區政府主席(79.12)	中共廣西區委書記(77.12)	幹部(地方)	
195 傅奎清	新男		安徽省(現湖北省)蕪湖縣	1920年	1938年	福州軍區政治委員(81.2)	瀋陽軍區副政治委員(76.4)		軍人	
196 焦林義	再男		河北省平山縣	1920年	1937年	中共湖南省委書記(80.2)	中共廣東省委書記(76.10)		幹部(地方)	85年引退
197 魯大果	再男		河北省館陶縣	1917年	1938年	復旦大學校長(83.2)	四川省省長(79.12)	中共重慶市委書記(74.4)	幹部(地方)	物理學者
198 謝希德	新男		福建省泉州市	1921年	1956年	復旦大學校長(83.2)	復旦大學副校長(82.10)		幹部(國家)知識分子?	55年中將; 85年引退
199 謝振華	新男		江西省崇義縣	1915年	1932年	昆明軍區政治委員(82.10)	瀋陽軍區副司令員(78.8)		軍人	55年中將; 85年引退
200 強曉初	新男		陝西省子長縣	1918年	1936年	中共吉林省委副書記(81.10)	中共山東省委書記(80)		幹部(地方)	85年中央規檢委
201 解峰	新男		河北省易縣	1922年	1939年	中共河北省委副書記(83.3)	中共石家莊地委第1書記	第7機械工業部副部長	幹部(地方)	
202 廖承志	再男		廣東省惠陽縣	1908年9月25日	1928年春	全人大常委副委員長(78.2)			幹部(國家)	83.6死去
203 饒福鼎·文則政	再男	少數民族(ウイグル族)	新疆·阿圖什	1915年3月	1949年10月	全人大常委副委員長(78.3)	中共新疆區委第1書記(73.7)		幹部(國家)	55年中將
204 譚友林	新男		湖北省江陵縣	1916年	1930年	蘭州軍區政治委員(83.11)	烏魯木齊軍區政治委員(80.2)		軍人	55年少將; 85年引退
205 譚啓龍	再男		江西省永新縣	1914年	1933年	中共四川省顧問委主任(83.2)	中共四川省委第1書記(80.3)	中共青海省委第1書記(77.3)	幹部(地方)	85年引退
206 譚善和	昇男		湖南省茶陵縣	1915年	1931年	烏魯木齊軍區政治委員(83.11)	工程兵司令員(75.4)	(浙江省內(昇進))	軍人	55年少將; 85年引退
207 薛駒	新男		山西省運城縣	1922年	1938年	中共浙江省委副書記(79.4)·浙江省委省長(83.5)			幹部(地方)	
208 穆青(別名: 亞才)	新男	少數民族(回族)	河南省杞縣	1921年2月	1939年	新華通訊社社長(82.8)			幹部(國家)	
209 戴蘇理	昇男		山西省襄垣縣	1919年	1937年	中共遼寧省委書記(83.3)	河南省省長(81.12)		幹部(地方)	

附表2：中共13期中央委員のデータ一覧

姓 名	選任 性別	民 族	原 籍	生 年	入 党	現 職	前 職 1	前 職 2	属 性	備 考
1 丁 潤 浪	(再) 男		江蘇省無錫市	1929年 9月	1966年 7月	鉄道部部长(85.6)			幹部(国家)	
2 丁 衡 高	(昇) 男		江蘇省南京市	1931年 2月	1963年 8月	国防科工委主任(85.6)	戦略ミサイル研究 四野系		幹部(国家)	孫采藻の女婿
3 子 永 波	新 男	少数民族(満州族)	遼寧省復県	1931年 9月	1968年 9月	南京军区政治部主任(85.5)	中共鶴崗市委書記	黒龍江省煤炭管理局副局長	幹部(国家)	
4 子 洪 恩	再 男		山東省莒県	1927年	1948年	煤炭工業部部长(85.6)	中共安徽省委第1書記	鉄道部部长	幹部(国家)	
5 万 里	再 男		山東省東平県	1918年 2月	1966年 5月	国务院副總理(80.4)、政治局委員(82.9)	中共安徽省委第1書記		幹部(国家)	石油派?
6 万 紹 芬	(再) 女		江西省南昌市	1930年	1962年	中共江西省委書記(85.6)	(石油開発專家)		幹部(国家)	
7 王 濤	(再) 男		河北省衡水市	1931年 11月	1968年 12月	石油工業部部长(85.6)			幹部(国家)	
8 王 海	(再) 男		山東省威海市	1925年 11月	1968年 9月	空軍司令員(85.7)	第四届中国作家協會副主席		幹部(国家)/知識分子?	作家
9 王 蒙	(再) 男		河北省南皮県	1934年	1948年	文化部部長(88.6)	中共湖北省委副書記		幹部(地方)	
10 王 群	昇 男		湖北省新洲県	1928年 9月	1944年 8月	中共内蒙自治区委書記(87.9)	財政部副部長(77)	財政部門で昇進	幹部(国家)	
11 王 丙 乾	再 男		福建省惠安県	1925年 8月	1941年 2月	全人大常務委副委員長(85.11)	全人大の法制工作(79)	北京市委幹部(49)	幹部(国家)	戦時ビルで華僑工作
12 王 漢 斌	再 男		河北省藁城県	1928年 1月	1945年 10月	南京军区副司令員(85.11)	全人大の法制工作(79)	三野系?	軍人	
13 王 成 斌	新 男		山東省掖県	1928年 1月	1955年 11月	中共山西省委書記(88.1)	中共中央宣伝部長(80)	副總理(78末)	幹部(国家)	
14 王 任 重	再 男		河北省豊潤県	1941年 7月	1965年 12月	中共中央宣伝部長(87.2)	中共中央宣伝部長(80)	共青团中央第1書記	幹部(地方)	
15 王 兆 国	再 男		江蘇省無錫市	1933年	1966年	中共中央宣伝部長(87.2)	紅旗副總編輯	国家語委政研所研究部主任	幹部(党中央)	
16 王 忍 之	(再) 男		江蘇省啓東県	1934年 12月	1966年 6月	中共山西省委書記(88.1)	中共太原市委書記(85.8)	山西省副省長(79.12)	幹部(地方)	大同航務局幹部
17 王 茂 林	新 男		貴州省黄平県	1930年 10月	1951年 7月	貴州省省長(83.5)、中共貴州省委書記(80.9)			幹部(地方)	
18 王 朝 文	再 男	少数民族(苗族)	浙江省慈溪県	1933年 1月	1956年 11月	山西省省長(83.4)	(族工作從事)		幹部(地方)	
19 王 森 浩	(再) 男		山東省招遠県	1929年 12月	1947年 2月	中共中央弁公庁副主任(83)	中央軍委弁公室主任	副總理弁公室秘書	軍人(幹部(党中央)?)	鄧小平の秘書
20 王 瑞 林	新 男		湖南省岳陽県	1929年 11月	1962年 12月	中共江西省委書記(88.4)	中共湖南省委書記(77.10)	湖南省革命委员会主任	幹部(地方)	
21 毛 致 用	再 男		河北省(現北京市)通県	1932年 9月	1963年 6月	中共青海省委書記(85.7)	(青海の石油開発從事)		幹部(地方)	
22 尹 克 升	(再) 男		湖北省漢陽県(～市?)	1928年 12月	1948年 7月	広播電影電視部部长(88.1)	広播電視部部长	清華大学副校長	幹部(国家)	
23 艾 知 生	再 男		内蒙古・土默特左旗	1926年	1942年	内蒙古自治区政府主席(88.4)	(内蒙古の宣伝工作)		幹部(地方)	烏蘭夫の息子
24 布 赫	再 男	少数民族(蒙古族)	安徽省蘆江県	1933年 8月	1954年 12月	安徽省省長(87.6)	(同省経済工作担当?)		幹部(地方)	葉劍英の息子
25 盧 采 景	新 男		山東省肥城県	1924年 11月	1946年 9月	広東省省長(85.8)			幹部(地方)	
26 葉 選 平	(再) 男		陝西省宝鸡県	1923年 6月	1946年 5月	国务院副總理(88.6)	国务院秘書長(81)	四川省財政庁庁長	幹部(国家)	
27 田 紀 雲	再 男		熱河省(現遼寧省)凌源県	1933年 4月	1963年 11月	南京军区副政治委員(85.11)	(抗美援朝参加)	一野系	幹部(地方)	
28 史 玉 孝	新 男		陝西省宝鸡県	1941年 1月	1971年 4月	寧夏回族自治区人民政府主席(87.4)	中共寧夏区委副書記(86)	遼寧省副省長	幹部(地方)	
29 白 立 屹	新 男	少数民族(回族)	新疆省(現自治区)策勒	1935年 9月	1963年 8月	国家民族事務委員会主任(88.1)	新疆ウイグル自治区政府主席		幹部(国家)	
30 司 馬 燕・艾買提	再 男	少数民族(ウイグル族)	河北省沙県	1927年	1943年	中共河北省委書記(88.5)	中共河北省委副書記	農業部副部長	幹部(地方)	
31 邢 崇 智	(再) 男		江蘇省洪沢県	1928年 8月	1944年 11月	国务院審計署審計長(88.3)	中国人民銀行行長(82)	財政部副部長(78)	幹部(国家)	
32 呂 培 俊	再 男		江蘇省阜寧県	1930年 5月	1946年 1月	地質部部長(85.9)	(地質工作)		幹部(国家)	
33 朱 訓	(再) 男		山東省長清県	1922年	1939年	空軍政治委員(85.12)	中央軍委秘書長	二野系	軍人	
34 朱 光	新 男		広東省潮陽県	1924年	1946年	中共中央対外聯絡部部长(85.12)	全国青聯秘書長	(上海青年学生工作)	幹部(党中央、外事)	
35 朱 良	新 男		湖北省漢陽県(現武漢市)	1924年 12月	1956年 4月	国防科工委科技委主任(86.1)	2機工業部研究院副院長	北京大学物理系教授	幹部(国家)/知識分子?	核開発関係者
36 朱 光 暉	再 男		浙江省定海県	1924年 12月	1940年 8月	中央規律検査委書記(87.11)	中央政法委書記(85.5)	中央組織部長(84.4)	幹部(党中央)	上海市出生
37 喬 石	再 男		湖南省耒陽県	1939年 4月	1960年 12月	国家体育運動委主任(87)	国防科工委副主任(83.9)		軍人	核開発関係者
38 伍 紹 祖	(再) 男									

姓名	選任性別	民族	原籍	生年	入党	現職	前職1	前職2	属性	備考
39 伍相華	再	少数民族(彝族)	四川省冕寧縣	1931年	1949年	中共西藏区委書記(85.6)	国家民族事務委第1副主任	中共四川省委常委	幹部(地方)	
40 任建新	新	男	山西省汾城縣(現襄汾市)	1925年8月	1948年6月	最高人民法院院長(88.4)	最高人民法院副院長(88.9)		幹部(国家; 政法)	
41 李國鋒	再	男	山西省交城縣	1921年2月	1938年10月	中共中央委員(89.4)	中共中央主席・國務院總理	副總理・公安部長	幹部(党中央)	
42 全樹仁	(男)	男	遼寧省新民縣	1930年8月	1949年4月	遼寧省委書記(86.7)	遼寧省省長	燕順市市長	幹部(地方)	
43 多吉才讓	新	少数民族(藏族)	甘肅省夏河縣	1939年11月	1960年10月	西藏區政府主席(85)	西藏區政府副主席		幹部(地方)	
44 劉正威	再	男	河南省新鄭縣	1930年2月	1952年9月	中共貴州省委副書記	中共河南省委副書記(83.3)		幹部(地方)	
45 劉安元	新	男	山東省高青縣	1927年11月	1943年11月	總後勤部政治委員(87)	廣州軍區副政治委員(88.10)	四野系	軍人	
46 劉振華	再	男	山東省泰安縣	1921年	1938年	北京軍區政治委員(87)	瀋陽軍區政治委員(82.10)	外交部副部長、四野系	軍人	64年少將
47 劉精松	(再)	男	湖北省石首縣	1933年7月	1954年2月	瀋陽軍區司令員(85.7)			軍人	
48 關宏富	(再)	少数民族(滿州族)	黑龍江省穆稜縣	1931年12月	1948年7月	中共湖北省委書記(83.3)	中國人民銀行湖北省分行長		幹部(地方)	
49 江沢民	再	男	江蘇省揚州市	1928年8月	1946年4月	中共上海市委書記(87.11)	上海市市長(85.7)	電子工業部部長	幹部(地方)	91年没
50 許士傑	新	男	廣東省澄海縣	1920年	1938年	中共海南省工作委員會書記(87.9)	中共廣州市委書記(81.9)	上海市副市長(83.5)	幹部(地方)	
51 阮崇武	(再)	男	河北省懷安縣	1933年5月	1952年6月	国家科学技术術委常務副主任(87.4)	公安部部長(85.9)		幹部(国家)	
52 孫維本	(再)	男	遼寧省營口市	1928年11月	1947年10月	中共黑龍江省委書記(85.11)	中共遼寧省委書記(83.3)	国家計委副主任(84.1)	幹部(地方)	
53 芮杏文	(再)	男	江蘇省連水縣	1927年	1945年	中共中央書記處書記(87.11)	中共上海市委書記(85.6)	電力工業部部長	幹部(党中央)	上海市出生
54 李鵬	再	男	四川省成都市	1928年10月	1945年11月	國務院總理(88.4)	國務院副總理		幹部(国家)	
55 李九龍	(再)	男	河北省豐潤縣	1929年3月	1945年12月	濟南軍區司令員(85.7)		四野系	軍人	
56 李子奇	再	男	陝西省神木縣	1923年	1937年	中共甘肅省委書記(83.3)	甘肅省副省長		幹部(地方)	
57 李長春	(男)	男	吉林省吉林市	1944年2月	1955年9月	遼寧省(代理?)省長(86.7)	中共瀋陽市委書記		幹部(地方)	
58 李立功	再	男	山西省文水縣	1925年	1940年	中共山西省委書記(85.12)	中共北京市委書記		幹部(地方)	
59 李旭蘭	新	男	河北省梁南縣	1927年	1944年	第二砲兵部司令員(85.11)	(抗美援朝參加)	華北野戰軍系	軍人	
60 李際均	(再)	男	吉林省長春市	1934年5月	1953年6月	機械化集團軍(38軍)司令員(86.8)	軍事科學院外軍研究所助理研究員		幹部(地方)	
61 李沢民	新	男	四川省蒼溪縣	1934年11月	1954年6月	中共瀋陽市委書記(86.8)	瀋陽農學院馬列主義教研室副主任		幹部(地方)	
62 李貴群	(再)	男	遼寧省蓋縣	1937年8月	1952年7月	國務委員・中國人民銀行行長(88.4)	中共安徽省委書記(86.6)		幹部(地方)	
63 李根深	新	男	浙江省湖州縣	1930年	1947年	中共ハルビン市委書記(85.7)	技術者		幹部(地方)	李維漢の息子
64 李鉄映	(再)	男	河南省長沙市	1936年9月	1955年4月	国家經濟體制改革委主任(87.4)	電子工業部部長(85.6)	中共遼寧省委書記(83.3)	幹部(国家)	
65 李純元	新	男	河南省林縣	1942年	1964年3月	解放軍軍長(南京軍區所屬)		(共青團系?)	幹部(国家)	
66 李夢華	再	男	河北省平山縣	1922年	1938年	国家体育運動委主任(81.9)			幹部(地方)	
67 李福霖	再	男	河北省(現天津市)宝坻縣	1934年9月	1959年9月	中共天津市委書記(87.9)、天津市市長(82.5)	共青團中央書記	全國總工會常委	幹部(地方)	
68 李錫銘	再	男	河北省東麗縣	1928年2月	1948年3月	中共北京市委書記(84.6)	城鄉建設環境保護部部長(82.5)	電力工業部副部長	幹部(地方)	
69 李新良	新	男	山東省萊陽縣	1936年	1956年	廣西軍區司令員(83.6)			軍人	
70 李德珠	(男)	少数民族(朝鮮族)	吉林省汪清縣	1943年11月	1965年4月	吉林省副省長(88.2)	中共延邊朝鮮族自治州委書記(83.12)	(延邊で活動)	幹部(地方)	
71 楊正午	(再)	男	湖南省龍山縣	1941年1月	1963年7月	中共湖南省委常委務委員(85)		(湘西地区で活動)	幹部(地方)	
72 楊白水(原名:尚正)	新	男	四川省成都市	1920年9月	1938年3月	總政治部主任(87.11)	北京軍區政治委員(85.6)	成都軍區政治部主任	幹部(地方)	
73 楊汝岱	再	男	四川省仁壽縣	1926年12月	1952年8月	中共四川省委書記(83.2)	四川省副省長(79.12)	四川省革委會副主任	幹部(地方)	
74 楊炳松	(再)	男	四川省大邑縣	1928年	1952年	中共河南省委書記(85.6)	四川省省長(83.5)		幹部(国家)	
75 楊尚昆	再	男	四川省瀘南縣	1907年	1926年	国家主席(88.4)	中共中央軍事委常務副主任(82.9)	中共中央辦公主任	幹部(国家)	
76 楊泰芳	再	男	廣東省梅縣	1927年4月	1948年	郵電部部長(84.7)	郵電部郵電科學研究院副院長		幹部(国家)	

姓名	選任性別	民族	原籍	生年	入党	現職	前職1	前職2	属性	備考
77 楊靜仁	再	少数民族(回族)	甘肅省蘭州市	1919年9月	1987年	政協第6期全國委副主席(83.6)	國家民族事務部主任	寧夏政協主席(77.12)	幹部(國家)	
78 楊德中	再	男	陝西省渭南	1922年10月	1938年9月	中共中央辦公庁第1副主任・警衛局長(83.1)	中央警衛團政治委員	八路軍115師系	軍人	
79 吳文英	(再)	女	江蘇省武進縣	1922年4月	1949年9月	紡織工業部部長(83.3)	中共常州市委副書記		幹部(國家)	
80 吳官正	(再)	男	江西省余干縣	1938年8月	1982年3月	江西省省長(86.10)	武漢市市長(83.3)		幹部(地方)	
81 吳學謙	再	男	上海市	1921年12月	1989年5月	副總理(88.4)	外交部部長(82.11)・國務委員(83.6)	中聯部副部長	幹部(國家)	医者
82 吳蔚然	(再)	男	江蘇省常州市	1920年	1986年12月	北京醫院名譽院長(86.3)			幹部(國家)	
83 何康	再	男	福建省福州市	1923年2月	1989年	農牧漁業部部長(83.6)			幹部(國家)	
84 何東昌	再	男	浙江省諸暨縣	1923年	1947年	國家教育委員會副主任(85.6)	教育部部長	清華大學副校長	幹部(國家)	
85 何竹康	(再)	男	江蘇省南通市	1922年2月	1947年4月	吉林省省長(88.2)	河南省省長(83.2)		幹部(地方)	
86 鄒家華	(再)	男	江西省余江縣	1928年10月	1945年6月	國家機械工業委員會主任(86.12)	兵器工業部部長	國防科工委副主任	幹部(國家)	上海市出生・鄒船翁の子息； 葉劍英の女婿
87 沈蓮人	新	男	江蘇省吳縣	1928年8月	1984年9月	中共寧夏回族自治区委書記(86)	中共江蘇省委副書記(83.4)	中共常州市委書記	幹部(地方)	
88 沈祖倫	新	男	浙江省寧波市	1931年	1948年	浙江省委副省長(83.4)	浙江省農業委副主任		幹部(地方)	
89 宋平	再	男	山東省青島	1917年4月	1987年12月	中共中央組織部部長(87.6)	國務委員・國家計劃委主任(83.6)	中共甘肅省委第1書記(77.6)	幹部(中央)	周恩來の政治秘書経験
90 宋健	(再)	男	山東省萊州府	1931年12月	1947年6月	國家科學技術部主任(84.9)・國務委員(86.4)	航天工業部副部長	(國防科研部門)	幹部(國家)	
91 宋漢良	(再)	男	浙江省紹興縣	1934年1月	1980年6月	中共新疆區委書記(85.10)	新疆政府副主席	(新疆の石油開発に従事)	幹部(地方)	
92 宋德福	(再)	男	河北省強山縣	1946年2月	1985年12月	共青團中央書記處第1書記(85.11)	總政治部組織部青年處副處長		幹部(黨中央、大衆団体)	
93 遲浩田	(再)	男	山東省招遠縣	1929年7月	1946年10月	總參謀長(87.11)	上海交通大學第1副校長	北京軍區副政治委員	軍人	華東野戰軍系
94 張壽	再	男	江蘇省常熟市	1930年	1949年	國家計劃委副主任(82.7)	瀋陽軍區政治部副主任		幹部(國家)	
95 張仲光	(再)	男	山東省微山縣	1928年	1941年	廣州軍區政治委員(85.6)	陝西省省長	四野系？	幹部(地方)	
96 張勁爽	新	男	河北省藁城	1930年8月	1950年11月	中共陝西省委書記(87.9)	中共志願地委副書記	(陝西省内で昇進)	幹部(地方)	
97 張綱	(再)	女	廣東省東莞市	1937年3月	1954年12月	全國總聯第1副主席・書記處第1書記(83.9)	中共山東省委副書記(83.3)		幹部(大衆団体)	
98 陸德普	再	男	江蘇省鎮江市	1929年	1983年	中共山東省委副書記(83.3)	山東省農科院副院長		幹部(地方)	
99 陳玉英	新	女	江蘇省常州市	1933年10月	1982年9月	中共常州市委書記(86.3)	常州市紡織工業局副局長	(同市紡織女工出身)	幹部(地方)	
100 陳光毅	(再)	男	福建省莆田縣	1933年8月	1989年3月	中共福建省委書記(86.3)	甘肅省省長	甘肅省計劃委副主任	幹部(地方)	
101 陳希同	再	男	四川省安岳縣	1930年6月	1949年12月	北京市市長(83.3)	中共昌平县委書記	中共北京市委辦公庁秘書	幹部(地方)	
102 陳俊生	新	男	黑龍江省肇南縣	1927年6月	1947年4月	國務院總書記(85.11)・國家機械工業委書記(86.4)	全國總工會副主席	中共黑龍江省委副書記	幹部(地方)	
103 陳輝光	(再)	男	廣西省(現自治区)玉林市	1939年	1985年12月	中共廣西区委書記(85.6)	(広西区内で昇進)		幹部(地方)	
104 陳德華	再	女	浙江省青田縣	1921年6月	1988年6月	中國人民銀行行長(85.3)・國務委員(82.5)	對外經濟貿易部部長(82.3)	對外經濟聯絡部部長	幹部(國家)	
105 林若	再	男	廣東省潮安縣	1924年	1945年5月	中共廣東省委書記(83.1)	中共湛江地委書記		幹部(地方)	
106 林麗蠶	再	女	台灣省台中市	1933年3月	1983年2月	全國總聯副主席(78.9)・台灣同胞聯誼會會長(81)	全國總工會副主席(83.10)	中共河南省委書記(82.3)	幹部(大衆団体)	在日教育歴あり
107 羅幹	再	男	山東省濟南市	1935年7月	1980年6月	勞動部部長(88.4)	科學院理論物理研究所所長	北京軍區參謀長(新四軍系)	幹部(大衆団体)	核開發參加
108 周光召	(再)	男	湖南省長沙市	1929年5月	1982年6月	中國科學院院長(87.1)	北京軍區副司令員(87.5)	三野系	軍人	
109 周依冰	新	男	安徽省阜陽縣	1922年	1983年	北京軍區司令員(87.12)	濟南軍區招總部部長		軍人	
110 周克玉	(再)	男	江蘇省阜寧縣	1923年3月	1945年4月	總政治部常務副主任(86.4)	(外貿部門・勤務)		幹部(國家)	
111 鄭拓彬	再	男	陝西省澄城縣	1924年2月	1988年	對外經濟貿易部部長(85.3)	(雷面部門・勤務)		幹部(國家)	東北から輸入
112 房維中	再	男	吉林省東豐縣	1928年	1980年	國家計劃委副主任(78.3)			幹部(國家)	
113 趙東苑	再	男	河南省南陽縣(市?)	1925年	1941年	人事部部长(88.4)	勞動人事部部长(85.9)	中央財經領導小組副秘書長	幹部(國家)	

姓名	選任	性別	民族	籍	原	生年	入党	現職	前職1	前職2	属性	備考
114 趙先順	(再)	男		河南省永城縣	1924年	1939年	贛州軍區司令員(88.7)	瀋陽軍區副司令員	(四野系)	軍人		
115 趙宗廟	昇	男		北京市	1928年	1948年	中央直屬機關党委常務副書記(86.5)	石油工業部副部長		幹部(党中央)		
116 趙南起	再	男	少数民族(朝鮮族)	吉林省永吉縣	1926年4月15日	1947年2月	總後勤部部長(87.11)	總後勤部副部長	吉林省軍區政治委員	軍人		
117 趙崇隨	再	男		河南省清原縣	1919年10月17日	1939年2月	中共中央總書記(87.11)・國務院總理	中共四川省委第1書記	中共広東省委第1書記	幹部(党中央)	89.6解任	
118 趙春林	新	男		河北省大名縣	1922年7月	1946年7月	中共湖北省委副書記(85)			幹部(地方)		
119 郝建秀	再	女		山東省青島市(嶗山縣?)	1935年11月	1953年11月	中央財經小組員(88.6)・國家計劃委副主任(87.10)	中共中央書記(85.9)	紡織工業部部長	幹部(國家)		
120 胡平	(再)	男		浙江省嘉興縣	1930年7月	1950年3月	商業部部長(88.4)	國家計劃委副主任(87.9)	福建省省長(88.5)	幹部(國家)		
121 胡啓立	(再)	男		陝西省榆林縣	1929年10月	1948年4月	政治部常務委員(87.11)・書記(82.9)	中共中央辦公主任(82.5)	天津市市長(80.6)	幹部(党中央)	89.6解任	
122 胡錦濤	(再)	男		安徽省績溪縣	1942年12月	1964年4月	中共貴州省委書記(86.7)	共青團中央第1書記(84.12)		幹部(地方)		
123 胡耀邦	再	男		湖南省瀏陽縣	1915年11月20日	1939年9月	中共中央政治局委員(87.11)	中共中央總書記(80.2)	中共中央主席(81.6)	幹部(党中央)	89.4死去	
124 侯捷	(再)	男		河北省灤縣	1931年1月	1948年12月	黑龍江省省長(85.5)	(同省内で昇進)		幹部(地方)		
125 侯宗寶	新	男		河北省南和縣	1929年1月	1946年6月	陝西省省長(88.1)	中共甘肅省委副書記(86.5)	中共山東省委秘書長	幹部(地方)	電力・能源担当	
126 姜春雲	新	男		山東省萊西縣	1930年4月	1947年2月	山東省省長(88.2)	中共濟南市委書記		幹部(地方)		
127 姜洪泉	(再)	男		山東省梁山縣	1932年	1947年	西蔵軍区司令員(84.8)	同軍区副司令員	成都軍区司令部情報部部长	軍人	二野系	
128 姚依林	再	男		安徽省貴地縣	1917年	1938年11月	國務院副總理(79.9)・國家計劃委主任(80.8)	(財貿部門)		幹部(國家)		
129 賀敬之	再	男		山東省嶧縣	1924年11月5日	1941年	中央宣傳部副部長(80.7)	文化部副部長		幹部(党中央)		
130 秦仲達	再	男		山東省榮成縣	1923年	1944年	化學工業部部長(82.9)	化學工業部副部長	北京軍区司令員(80.1)	幹部(國家)		
131 秦基偉	再	男		湖北省黃安縣	1914年11月	1930年4月	國共兩黨・國防部長(88.4)	北京軍区司令員(80.1)	成都軍区司令員(73.8)	軍人		
132 熱地	再	男	少数民族(藏族)	西蔵(現自治区)比如	1938年8月	1961年10月	中國西藏区委副書記(86.11)			幹部(地方)		
133 袁偉民	(再)	男		江蘇省蘇州市	1939年7月	1962年2月	國家體育運動委副主任(84.11)	女子バレーボールコーチ		幹部(國家)		
134 聶奎聚	昇	男		山東省益都縣	1925年	1945年	海軍副司令員(82.12)・東海艦隊司令員(85.11)	(海軍内で昇進)		軍人		
135 聶璧初	新	男		湖南省桃源縣	1930年	1948年	天津市副市長(83.4)・天津市委副書記(86.10)	天津市副市長	(三野系)	幹部(地方)		
136 聶春旺	(再)	男		北京市	1938年5月	1962年9月	國家安全部部長(86.9)	中共北京市委副書記(84.8)	共青團第11期中央常務委員	幹部(國家)		
137 顧秀蓮	再	女		江蘇省南通市	1936年12月	1963年9月	江蘇省省長(83.4)	國家計劃委副主任(81.5)	國家計劃委副主任(73)	幹部(地方)		
138 顧金池	新	男		河北省雄縣	1932年2月	1949年10月	四川省副省長(82.2)	自貢市副市長		幹部(地方)		
139 錢正英(原名:錢美端)	再	女		浙江省嘉興縣	1923年7月	1941年9月	政協全國委副主席(88.4)	水利電力部部長(82.3)	水利部部長(79.2)	幹部(國家)		
140 魏永昌	再	男		上海市	1933年	1953年	交通部部長(84.7)	中國遠洋運輸總公司總經理(81.4)	(海洋交通專家)	幹部(國家)		
141 魏李仁	(再)	男		浙江省嘉興縣	1924年	1940年	人民日報社社長(86.12)	中共中央對外聯絡部部長(83.7)	(外事工作)	幹部(党中央)		
142 魏其琛	(再)	男		江蘇省(現上海市)嘉定縣	1928年1月	1942年10月	外交部部長(88.4)	外交部副部長(82.5)		幹部(國家; 外事)		
143 陳木蘭・達瓦買提	再	男	少数民族(ウイグル族)	新疆 托克遜	1927年6月	1952年12月	新疆區人民政府主席(85.12)	國家民族事務委員會副主任		幹部(地方)		
144 倪志福	再	男		江蘇省(現上海市)川沙縣	1933年5月	1958年10月	中華全國總工會主席(78.11)	中共天津市委書記(84.11)	政治局委員(77.7)	幹部(大衆団体)		
145 徐惠滋	(再)	男		山東省濰縣	1932年12月	1950年3月	營務副總參謀長(85.4)			軍人		
146 高狄	(再)	男		山東省臨沂縣	1927年	1946年	中央党校副校長(88.4)	中共吉林省委書記(85.5)	吉林市長	幹部(党中央)		
147 高煥昌	新	男		河北省深縣	1924年	1942年	新疆軍区司令員(87.7)	南疆軍区司令員	北疆軍区副參謀長	軍人		
148 郭振乾	新	男		河南省洛寧縣	1933年2月	1949年4月	湖北省省長(86.5)	湖北省副省長		幹部(地方)		
149 郭超人	新	男		湖北省宜昌縣	1934年10月	1960年3月	新華通訊社副社長(84.8)	新華通訊社社長		幹部(國家)		
150 朗大忠	(再)	男	少数民族(タタリ族)	雲南省盈江縣	1933年	1956年2月	中共雲南省德宏自治州委書記	(雲南工作)		幹部(地方)	83.11中央委員增補?	
151 戚元清	(再)	男		湖北省漢口市	1929年	1945年11月	冶金工業部部長(85.9)	(冶金部門内で昇進)		幹部(國家)		

姓名	選任性別	民族	原籍	生年	入党	現職	前職 1	前職 2	屬性	備考
152 崔乃夫	再男		河北省(現北京市昌平縣)	1928年10月	1948年5月	民政部部長(82.5)	民政部副部長(81.5)	蘭州大學教務長	幹部(國家)	
153 關明復	新男		遼寧省海城縣(市?)	1931年11月	1949年	中共中央統一戰線部部長(85.12)	第6期全人大常委秘書長	中央辦公庁翻譯組組長	幹部(黨中央)	
154 梁步庭	再男		山東省嶺山縣	1921年	1939年	中共山東省委書記(83.3)	山東省省長(83.5)	中共青海省委第1書記	幹部(地方)	
155 梁清材	再男		廣東省廣州市	1932年5月	1961年3月	中國科學院生物物理研究所所長(86.5)	科學院南海海洋研究所所長		幹部(國家)	知識分子?
156 梁健行	再男		浙江省新昌縣	1931年1月	1949年3月	監察部部長(87.6)	中共中央組織部部長(85.9)	全國總工會副主席	幹部(國家)	
157 彭冲	再男		福建省漳浦縣	1915年3月	1934年8月	全人大常委副委員長・秘書長(88.3)	中共上海市委第1書記(79.1)		幹部(地方)	
158 董維昌	再男		陝西省韓城縣	1930年	1949年	中共陝西省委副書記(83.4)	中共西安市委書記		幹部(地方)	
159 蔣心雄	再男		浙江省兵興縣	1931年7月	1966年4月	國家核工業總公司總經理(88.5)	核工業部部長(83.6)	國營504工廠廠長	幹部(國家)	
160 蔣民寬	再男		江蘇省吳縣	1930年5月	1961年6月	國家科學技術委員會主任(88.1)	四川省省長(83.4)	西南綢緞加工廠廠長	幹部(地方)	
161 韓培信	再男		江蘇省響水縣	1921年	1940年	中共江蘇省委書記(81.11)・省人大常委主任(88.2)	輕工業部副部長(78.6)	中共常州市委書記	幹部(地方)	
162 程維高	再男		江蘇省蘇州市	1933年9月	1960年12月	河南省省長(88.1)	中共南京市委書記	(一野系?)	幹部(地方)	
163 傅全有	再男		山西省華寧縣	1930年11月	1947年9月	成都軍區司令員(85.6)	雲南省省長(83.3)		幹部(地方)	
164 普朝柱	再男		雲南省華寧縣	1929年8月	1948年2月	中共雲南省委書記(85.7)	地質部地質部副部長(83.10)	甘肅省地質局副局長(82)	幹部(黨中央)	
165 溫家宝	再男		天津市	1942年9月	1965年4月	中共中央辦公庁主任(86.5)	中共廣東省委辦公庁主任		幹部(地方)	
166 謝希德	再女		福建省泉州府	1932年11月	1949年7月	中共廣東省委副書記(83.3)	復旦大學校長(83.2)		幹部(地方)	物理學者
167 雷鳴球	再男		福建省泉州府	1921年	1966年	上海市政協主席(88.4)			幹部(地方)	深圳特區駐屯?
168 雷鳴球	再男		福建省泉州府	1921年	1966年	上海市政協主席(88.4)			幹部(地方)	趙茶德の秘書, 89.6失脚
169 鄭形	再男		浙江省海鹽縣	1932年	1949年	總理辦公廳負責(85.6)	國家經濟體制改革委員會主任(84.2)	公安部辦公庁副主任	幹部(國家)	
170 蔡誠(原名: 伍毅漢)	再男		廣東省普寧縣	1927年	1945年	司法部部長(88.4)	人民公安大學校長(84.10)		幹部(國家)	廖家志の長男
171 廖暉(原名: 廖愷孫)	再男		廣東省惠陽縣	1942年5月	1969年12月	國務院僑務辦公室主任(84.4)	中共長沙市委第2書記		幹部(地方)	
172 熊澤泉	再男		湖南省雙峰縣	1927年	1949年	湖南省委副書記(85.7)・中共湖南省委書記(88.4)	中共新疆區委第1書記(73.7)		幹部(國家)	
173 賽福鼎·艾則孜	再男	少数民族(ウイグル族)	新疆·阿圖什	1915年	1949年10月	全人大常委副委員長(78.3)		(浙江省内で昇進)	幹部(地方)	
174 薛駒	再男		山西省運城縣	1922年	1938年	中共浙江省委書記(87)・浙江省省長(83.5)			幹部(地方)	
175 魏金山	再男		山東省蓬萊縣	1927年4月	1945年12月	海軍副政治委員(85.8)	總參謀部政治部主任	南京軍區政治部主任(82.12)	軍人	三野系

附表3：中共14期中央委員のデータ一覧

姓 名	選任性別	民 族	原 籍	生 年	入 党	現 職	前 職 1	前 職 2	属 性	備 考
1 丁文昌	新 男		安徽省宿県	1933年10月	1956年5月	空軍政治部主任(88.10)、空軍少将(88.9)	(空軍内で昇進)	軍人	幹部(党中央)	
2 丁開根	再 男		江蘇省無錫市	1929年9月	1956年7月	中共中央統一戰線部部長(90)	鉄道部部長		軍人	聶榮臻の女婿
3 丁衡高	再 男		江蘇省南京市	1931年2月	1953年8月	国防科工委主任(85.6)、中将	戰略ミサイル研究		軍人	四野系
4 于永波	再 男	少数民族(滿州族)	遼寧省復県	1931年9月	1946年9月	総政治部主任(92.12)、中将	新彊軍区副司令員など	南京軍区政治部主任	軍人	
5 王 克	新 男		江蘇省(現安徽省)濉県	1931年8月	1947年10月	蘭州軍区副司令員(90.8)、中将	石油工業部部長(85.6)	三野系?	軍人	石油派?
6 王 濤	再 男		河北省榮亭県	1931年11月	1948年12月	中国石油天然ガス総公司總經理(88.5)	(空軍内で昇進)		軍人	
7 王 海	再 男		山東省威海市	1925年11月	1945年9月	空軍司令員(85.7)、空軍上將			幹部(地方)	
8 王 群	再 男		湖北省荊州県	1926年9月	1944年8月	中共内蒙古区委書記(88.12)	中共内蒙古区委第1書記	中共湖北省委副書記	幹部(地方)	
9 王漢斌	再 男		福建省惠安県	1925年8月	1941年2月	全人大常務委員(88.4)	全人大常務秘書長(83.6)	全人大の法制工作(79)	幹部(国家)	戦時ビルマ華僑工作
10 王成斌	再 男		山東省掖県	1928年1月	1945年10月	北京軍区司令員(90.5)、中将	南京軍区副司令員	三野系?	軍人	
11 王兆国	再 男		河北省豊潤県	1941年7月	1965年12月	中央台湾工作弁公室・ 國務院台湾事務弁公室主任(90.10)	福建省省長	中共中央弁公庁主任	幹部(党中央)	
12 王茂林	再 男		江蘇省啓東県	1934年12月	1953年6月	中共山西省委書記(91.3)	中共大原市委書記	山西省革命委副主任	幹部(地方)	
13 王忠禹	昇 男		吉林省長春市	1933年2月	1958年5月	國務院經濟貿易弁公室常務副主任(92.3?)	吉林省省長		幹部(国家)	
14 王維澄	新 男		浙江省桐廬県	1929年6月	1948年5月	中共中央政策研究室主任(89.9)、中央規划委委員	中共中央宣伝部副部長		幹部(党中央)	保守派?
15 王朝文	再 男	少数民族(苗族)	貴州省黄平県	1930年10月	1951年7月	貴州省省長(83.5)、中共貴州省委書記(80.9)			幹部(地方)	
16 王森浩	再 男		浙江省慈溪県	1933年1月	1955年11月	中国統煤礦總公司總經理(92.8)	山西省省長	(限鉱工作従事)	幹部(国家)	
17 王福林	再 男		山東省招遠県	1929年12月	1947年2月	総政治部副主任(90)、中共中央军委規划委書記(90.7)、 中將	中央弁公庁副主任(88)	中央軍委弁公室主任	軍人/幹部(党中央)?	鄧小平の秘書
18 毛致用	再 男		湖南省岳陽県	1929年11月	1952年12月	中共江西省委書記(88.4)	中共湖南省委書記	湖南省革命委主任	幹部(地方)	
19 高力吉	新 男	少数民族(蒙古族)	内蒙古科爾沁右翼中旗	1933年8月	1953年9月	中共内蒙古区委副書記(91.11)	(内蒙古内で昇進)		幹部(地方)	
20 尹克升	再 男		河北省(現北京市)通県	1932年3月	1953年6月	中共青海省委書記(85.7)	(青海の石油開発に従事)		幹部(地方)	
21 郭通駿	昇 男		江蘇省無錫市	1931年1月	1947年12月	中共海南省委書記(90.7)	中共無錫市委書記		幹部(地方)	
22 支知生	再 男		湖北省漢陽県(市?)	1928年12月	1948年7月	広播電影電視部部長(86.1)	広播電視部部長	清華大学副校長	幹部(国家)	葉劍英の息子
23 盧榮景	再 男		安徽省鹽江県	1933年8月	1954年12月	中共安徽省委書記(88.4)	安徽省省長(87.6)	(同省經濟工作担当?)	幹部(地方)	
24 葉連松	昇 男		山東省萊陽県	1935年3月	1958年12月	中共河北省委常務委員(90.7)	中共河北省省長(85.8)	河北省副省長	幹部(国家)	
25 葉選平	再 男		広東省鶴山県	1924年11月	1945年9月	全人大常務委員(92.6)	広東省省長(85.8)	國務院副總理(83.6)	幹部(国家)	
26 田紀雲	再 男		山東省肥城県	1929年6月	1945年5月	政協全国委員会副委員長(91.3)	國務院副總理(88.6)	國務院秘書長(81)	幹部(国家)	
27 田曾佩	新 男		河北省饒陽県	1930年10月	1947年11月	外交部副部長(88.5)、中央保密委員会委員(92.6)	駐ユーゴスラヴィア大使		幹部(地方)	
28 史王孝	再 男		陝西省宝鶏県	1933年4月	1953年11月	広州軍区政治委員(92.11)、中將	南京軍区政治委員(90.5)	遼寧省副省長	幹部(地方)	
29 白立忱	再 男	少数民族(回族)	熱河省(現遼寧省)凌源県	1941年1月	1971年4月	寧夏軍区政治主任(87.4)	中共寧夏区委副書記(86)	一野系	幹部(地方)	
30 白清才	新 男		山西省五台県	1932年11月	1955年11月	陝西省省長(90.4)	山西省副省長		幹部(地方)	
31 司馬義	再 男	少数民族(ウイグル族)	新疆省(現自治区)葉勒	1935年9月	1953年8月	政協全国委員会副主席(86.1)	国家民族事務委主任	新疆区政府主席	幹部(国家)	
32 成克杰	新 男	少数民族(壮族)	広西省(現自治区)上林県	1933年11月	1954年2月	広西区政府主席(90.4)	(広西区内で昇進)		幹部(地方)	
33 呂 楓	新 男		河北省盧竜県	1927年2月	1945年7月	中共中央組織部部長(90.1)	第3期中央規律検査委員		幹部(党中央)	
34 呂培俊	再 男		江蘇省洪沢県	1928年8月	1944年11月	國務院審計署審計長(85.3)	中国人民銀行長(82)	財政部副部長(78)	幹部(国家)	
35 朱 訓	再 男		江蘇省阜寧県	1930年5月	1946年1月	地質部部長(85.9)	(地質工作)		幹部(国家)	
36 朱光亚	再 男		湖北省漢陽県(現武漢市)	1924年12月	1956年4月	中国科学技術協会主席(91.5)	国防科工委科技委主任	二機工業部研究院副院長	幹部(国家)/知識分子?	数学・物理学者、高エネルギー物理

姓名	選任性別	民族	籍	生年	入党	現職	前職1	前職2	属性	備考
37 朱森林	男		江蘇省(現上海市)川沙縣	1930年10月	1952年7月	廣東省副省長、代理省長(91.5)	広州市市長	瀋陽軍区副司令員	幹部(地方)	
38 朱敏法	男		江蘇省浦東	1927年9月	1945年5月	国防大学校長(92.11)、中將	広州軍区司令員(90.5)	瀋陽軍区副司令員	軍人	
39 朱維基	男		湖南省長沙市	1928年10月	1949年10月	國務院副總理(91.4)	中共上海市委書記	上海市市長	幹部(国家)	
40 喬石	男		浙江省定海縣	1924年12月	1940年8月	第8期全人大常委委員長(93.3)	中央規律検査委書記(87.11)		幹部(国家)	上海市出生
41 伍紹祖	男		湖南省耒陽縣	1939年4月	1956年12月	国家体育運動委主任(88.12)、少將	国防科技工委副主任	(核開発関係者)	軍人	共青团および軍事工作の経験あり
42 任建新	男		山西省汾陽縣(現襄汾市)	1925年8月	1948年6月	最高人民法院院長(88.4)、中央政法委副書記(90.6)	最高人民法院副院長	副總理、公安部長	幹部(国家)	
43 全樹仁	男		山西省交城縣	1921年2月	1938年2月	中共中央委員(89.4)	中共中央主席、國務院總理	撫順市市長	幹部(党中央)	
44 金樹仁	男		遼寧省新民縣	1930年8月	1949年4月	中共遼寧省委書記(86.7)	遼寧省省長	西藏区政府副主席	幹部(地方)	
45 多吉才讓	男	少数民族(藏族)	甘肅省夏河縣	1939年11月	1960年10月	民政部副部長(90.5)	国家計划委副主任		幹部(国家)	
46 劉中一	男		湖北省武昌市	1930年12月	1954年12月	農業部部長(90.6)	中共河南省委副書記	財政部副部長	幹部(地方)	
47 劉正威	男		河南省新鄉縣	1930年2月	1950年9月	中共貴州省委書記(88.12)	國務院副秘書長(90.8)	財政部副部長	幹部(地方)	
48 劉仲黎	男		浙江省寧波市	1934年10月	1954年6月	財政部部長(92.9)	中共中央顧問委員(85)	海軍司令員	幹部(国家)	二野系
49 劉華清	男		湖北省大悟縣	1916年10月	1935年10月	中共中央軍委副主席、上將(55年少將)	中共中央顧問委員(85)	總後勤部政治委員	軍人	四野系
50 劉安元	男		山東省高青縣	1927年11月	1943年11月	第二炮兵政治委員(90.5)	總後勤部政治委員	広州軍区副政治委員	軍人	
51 劉紀原	男		山西省興縣	1933年	1952年7月	航空航天部副部長(88.5)	(航空航天部門で昇進)		幹部(国家)	
52 劉忠德	男		吉林省輯安縣	1933年5月	1956年11月	中共中央宣伝部副部長(90.6)、文化部代理部長(92.11)	文化部副部長		幹部(党中央)	
53 劉劍鋒	男		河北省(現天津市)寧河縣	1936年6月	1956年5月	中共海南省委副書記(88.9)、海南省省長(89.9)	電子工業部副部長(84.9)		幹部(地方)	
54 劉精松	男		湖北省石首縣	1933年7月	1954年2月	蘭州軍区司令員(92.11)、中將	瀋陽軍区司令員(85.6)		軍人	
55 齊捷遠	男		湖北省鄂城縣	1930年1月	1948年11月	國務院外事辦公室主任(91.6)	外交部副部長(政州担当)		幹部(国家; 外事)	
56 閻広富	男	少数民族(滿州族)	黑龍江省穆稜縣	1931年12月	1948年7月	中共湖北省委書記(83.3)	中国人民銀行湖北省分行行長		幹部(地方)	
57 江沢民	男		江蘇省揚州市	1926年8月	1946年4月	中共中央總書記(89.6)、中央军委主席(89.11)	中共上海市委書記(87.11)	上海市市長(85.7)	幹部(党中央)	
58 阮崇武	男		河北省懷安縣	1933年5月	1952年6月	労働部部長(89.7) [中共中央海南省委書記(83.1)]	国家科学技術委副主任(87.4)	公安部長(85.9)	幹部(国家)	
59 孫維本	男		遼寧省營口市	1928年11月	1947年10月	中共黑龍江省委書記(85.10)	中共遼寧省委書記		幹部(地方)	
60 李景	男		山東省滕縣	1930年3月	1949年9月	副總參謀長(92.11)、海軍中將	海軍副司令員(83.1)	(海軍航空兵として昇進)	軍人	上海市出生
61 李鵬	男		四川省成都市	1928年10月	1945年11月	國務院總理(88.4)	國務院副總理		幹部(国家)	四野系
62 李九龍	男		河北省豐潤縣	1929年3月	1945年12月	成都軍区司令員(91.10)、中將	總後勤部副部長(90.6)		軍人	
63 李長春	男		吉林省吉林市	1944年2月	1965年9月	河南省省長(91.3)、中共河南省委書記(92.12)	遼寧省省長	瀋陽軍区副政治委員	幹部(地方)	
64 李文卿	男		山東省牟平縣	1930年5月	1947年4月	国防大学政治委員(92.11)、中將	国防大学副政治委員(90.8)		軍人	
65 李米柱	男		山東省莘縣	1932年11月	1948年11月	北京軍区副司令員(85.6)、中將	(外貿部門)		軍人	
66 李嵐清	男		江蘇省鎮江市	1932年5月	1950年9月	対外經濟貿易部部長(90.12)、副總理(93.3)	労働人事部副部長		幹部(国家)	
67 李伯勇	男		天津市	1932年5月	1957年2月	中共四川省委常務副書記(90.10)	広州軍区副司令員(90.5)	(広州軍区參謀部門で昇進)	幹部(地方)	
68 李希林(原名: 瑞林)	男		吉林省長春市	1934年5月	1953年6月	軍事科学院副院長(92.11)、中將	広州軍区副司令員(90.5)		軍人	
69 李際均	男		山東省齊河縣(布?)	1938年10月	1961年11月	中共北京市委常務副書記(87.12)、北京市市長(93.2)	中共軍委年公庁主任(91.10)		幹部(地方)	
70 李其炎	男		四川省蒼溪縣	1934年11月	1954年6月	中共浙江省委書記(88.12)	中共瀋陽市委書記		幹部(地方)	
71 李沢民	男		遼寧省遼寧	1937年8月	1962年7月	國務委員、中国人民銀行行長(88.4)	中共安徽省書記		幹部(国家)	
72 李貫鮮	男		湖南省長沙市	1936年9月	1950年4月	國務委員、国家教育委主任(88.4)	国家經濟体制改革委主任		幹部(国家)	
73 李煥映	男									李繼漢の息子

姓 名	選任 性別	民 族	原 籍	生 年	入 党	現 職	前 職 1	前 職 2	属 性	備 考
74 李瑞環	再 男		河北省(現天津市)宝坻県	1934年9月	1989年9月	中共中央政治局常務委員(89.6)・全国政協主席(93.3)	中共天津市委書記	天津市市長	幹部(党中央)	
75 李德洙	再 男	少数民族(朝鮮族)	吉林省汪清県	1943年11月	1965年4月	中共中央統一戰綫部副部長(92.8)	国家民族事務委副主任(90.11)	吉林省副省長	幹部(党中央)	
76 楊正午	再 男	少数民族(土家族)	湖南省龍山県	1941年1月	1969年7月	中共湖南省委副書記(90.10)	中共湖南省委常務委員(86)	(省内民族工作で昇進)	幹部(地方)	
77 楊白冰(原名:尚正)	再 男		四川省成都市	1920年9月	1989年3月	中央軍委秘書長(89.11)、總政治部主任(87.11)、上將	北京軍区政治委員	成都軍区政治部主任	軍人	二野系
78 楊國梁	昇 男		河北省遵化県	1938年3月	1961年5月	解放軍第二砲兵司令員(92.11)、少將	解放軍第二砲兵副司令員(85)		軍人	
79 楊德中	再 男		陝西省渭南県	1923年10月	1989年9月	中共中央办公厅第一副主任・警衛局局長(80)、中將	中央警衛団政治委員	八路軍11師系	軍人/幹部(党中央)?	
80 吳 儀	昇 女		湖北省武漢市	1938年11月	1962年4月	对外貿易經濟合作部部長(93.3)	对外經濟貿易部常務副部長(90.5)	北京市副市長	幹部(国家)	
81 吳文英	再 女		江蘇省武進県	1932年4月	1949年9月	紡織工業部部長(83.3)	中共常州市委副書記		幹部(国家)	
82 吳邦国	昇 男		安徽省肥東県	1941年7月	1964年4月	中共上海市委書記(91.4)	上海市電子工業部門で昇進		幹部(地方)	
83 吳官正	再 男		江西省余干県	1938年8月	1962年9月	江西省省長(86.5)	武漢市市長		幹部(地方)	
84 何光遠	昇 男		河北省安新県	1930年4月	1965年7月	機械電子工業部部長(89.12)	機械電子工業部副部長	国家機械工業委副主任	幹部(国家)	
85 何竹康	再 男		江蘇省南通市	1932年2月	1947年4月	中共吉林省委書記(88.5)	吉林省代省長(86.7)	河南省省長	幹部(地方)	
86 何椿霖	新 男		江蘇省無錫市	1933年8月	1961年3月	國務院副秘書長(88.5)		(農業機械專家)	幹部(国家)	
87 佟宝存	新 男		河北省滦寧県	1933年11月	1948年10月	瀋陽軍区副司令員(90.7)			軍人	
88 谷善慶	新 男		遼寧省復県	1931年11月	1949年11月	北京軍区政治委員(92.11)、少將	成都軍区政治委員(90.5)	広州軍区副政治委員	軍人	
89 鄒家華	再 男		江西省九江県	1926年10月	1945年6月	國務院副總理(91.4)、国家計划委主任(89.12)	国家機械工業委主任(88.12)	兵器工業部部長	幹部(国家)	上海市出生、鄒韜奮の子息； 葉劍英の女婿
90 汪家鏐	昇 女		浙江省平湖県	1922年3月	1946年1月	中共北京市委副書記(88.10)	(北京市内で昇進)		幹部(地方)	
91 沈達人	再 男		江蘇省吳県	1928年8月	1964年9月	中共江蘇省委書記(89.12)	中共宁夏回族自治区委書記	中共江蘇省委副書記(83.4)	幹部(地方)	
92 宋 健	再 男		山東省萊城県	1931年12月	1947年6月	国家科学技术術委主任(94.9)、國務委員(86.4)	航天工業部副部長	(国防科挙部門)	幹部(国家)	
93 宋漢良	再 男		浙江省紹興県	1934年1月	1960年6月	中共新疆区委書記(85.10)	新疆区政府副主席	(新疆の石油開発に從事)	幹部(地方)	
94 宋克達	昇 男		江蘇省塩城県	1928年7月	1945年3月	瀋陽軍区政治委員(87.12)、中將	(瀋陽軍区内で昇進)	四野系	軍人	
95 宋清渭	新 男		山東省濰県	1929年3月	1945年10月	濟南軍区政治委員(87.11)、中將	(福州・濟南軍区で昇進)	三野系	軍人	
96 宋德福	再 男		河北省塩山県	1946年2月	1965年12月	人事部部长(88.3)	共青团中央第1書記(86.11)	總政治部組織部青年処副処長	幹部(国家)	華東野戦軍系
97 遲浩田	再 男		山東省招遠県	1923年7月	1946年10月	國務委員・国防部部长(83.3)、上將	總參謀長(87.11)	濟南軍区政治委員	軍人	
98 張 工	新 男		山西省(現原平)県	1935年7月	1961年12月	成都軍区政治委員(92.11)、少將	北京軍区政治委員(90.5)	北京軍区政治部主任	軍人	三野系
99 張 震	元 男		湖南省平江県	1914年10月	1930年7月	国防大学校長(85.12)、同大学政治委員(90.5)、上將	第12期(85.9)、第13期中央顧問委員		軍人	
100 張工華	新 男		河南省陝県	1933年6月	1966年3月	中華全国总工会第1書記(91.12)	中共内蒙古区委副書記(88)	中央規格委委員	幹部(大衆団体)	
101 張万年	昇 男		山東省黄県	1928年6月	1945年8月	總參謀長(92.10)、中將	中共天津市委副書記(89.10)、同市常務副市長(85.10)	広州軍区司令員	軍人	
102 張立昌	昇 男		河北省南皮県	1939年6月	1966年2月	中共天津市委副書記(89.10)、同市常務副市長(85.10)	(天津市冶金工業部門で昇進)		幹部(地方)	
103 張連忠	昇 男		山東省膠県	1931年6月	1948年1月	海軍司令員(88.2)、中將	(海軍で昇進)		軍人	
104 張勁爽	再 男		河北省藁城県	1930年8月	1960年11月	中共陝西省委書記(87.9)	陝西省省長		幹部(地方)	
105 張思卿	昇 男		河南省洛陽市	1932年8月	1962年10月	最高人民檢察院檢察長(83.3)	最高人民檢察院副檢察長(85.9)	中共湖北省委政法委書記	幹部(国家)	
106 張美遠	新 男		四川省巴中県	1937年11月	1968年8月	北京軍区某集团軍軍長、少將	(北京軍区で昇進)		軍人	
107 張耀英	再 女		広東省東莞市	1937年3月	1964年12月	中共広東省委副書記(90.1)	全国編聯第1副主席兼第1書記	中共惠陽地委副書記	幹部(地方)	
108 張福森	新 男		北京市順義県	1940年3月	1968年10月	中共新疆区委副書記(90.10)	(北京市内で昇進)		幹部(地方)	
109 陳玉英	再 女		江蘇省常州市	1933年10月	1962年9月	中共常州市委書記(86.3)	常州市紡織工業局副局長		幹部(地方)	

姓名	選任性別	民族	原籍	生年	入党	現職	前職 1	前職 2	屬性	備考
110 陳珉珉	男		江西省九江市	1934年9月	1975年10月	湖南省省長(89.5)	湖南省副省長	(化學工業建設專家)	幹部(地方)	
111 陳光毅	男		福建省莆田縣	1933年8月	1959年3月	中共福建省委書記(86.3)	甘肅省省長	甘肅省計劃委副主任	幹部(地方)	
112 陳希同	男		四川省安岳縣	1930年6月	1949年12月	中共北京市委書記(86.9)、北京市市長(83.3)	中共昌平縣委書記	中共北京市委辦公廳秘書	幹部(地方)	
113 陳奎元	男		遼寧省康平縣	1941年1月	1965年5月	中共西藏區委書記(92.12)	中共西藏區委副書記(92.1)	內蒙古區政府主席	幹部(地方)	
114 陳俊生	男		黑龍江省肇南縣	1927年6月	1947年4月	國務院委員(88.4)	國務院秘書長	全國總工會副主席	幹部(國家)	
115 陳敏章	男		浙江省杭州市	1931年11月	1954年1月	衛生部部長(87.4)	醫者	全國總工會副主席	幹部(國家)	知識分子？
116 陳燦友	男		江蘇省南通市	1934年1月	1954年4月	江蘇省省長(89.4)	(江蘇省內で昇進)		幹部(地方)	
117 陳納華	男		安徽省青陽縣	1929年7月	1949年9月	國家計劃委主任(83.3)	國家經濟體制改革委主任(90.9)	中國石油化工總公司總經理	幹部(國家)	
118 陳慕華	女		浙江省青田縣	1921年6月	1938年6月	全人大常委副委員長(88.4)、全國婦聯主席(88.9)	中國人民銀行行長(85.3)	對外經濟貿易部部長	幹部(國家)	
119 邵華沢	男		浙江省淳安縣	1933年6月	1957年2月	人民日報社社長(92.11)、人民日報總編輯(89.6)、中將	解放軍報社副社長	總政治部宣傳部部長	幹部(黨中央)	
120 邵奇惠	男		江蘇省宜興縣	1934年6月	1953年10月	黑龍江省省長(89.3)	(黑龍江省内で工作)		幹部(地方)	無錫市出生、79年黨籍回復
121 林麗薈	女		台灣省台中市	1933年3月	1963年2月	全國婦聯副主席(78.9)、中央國家機關工作委員會委員(89.9)	台灣同胞聯誼會會長(81)		幹部(大眾團體)	在日教育歴あり
122 固輝	男		遼寧省蓋平縣	1930年10月	1948年12月	南京軍區司令員(90.5)、中將	濟南軍區副司令員	四野系？	軍人	
122 羅幹	男		山東省濟南市	1935年7月	1960年6月	國務院秘書長(88.12)、中央國家機關工作委員會委員(89.9)	勞働部部長(88)	全國總工會副主席	幹部(國家)	
124 和志強	男	少数民族(維西族)	雲南省麗江縣	1934年10月	1956年3月	雲南省省長(85.8)	(雲南省内で昇進)		幹部(地方)	
125 岳峻峰	男		河北省大名縣	1931年12月	1945年1月	遼寧省省長(91.3)	河北省省長	中共唐山市委書記	幹部(地方)	長春市出生
126 周南	男		山東省曲阜市	1927年11月	1946年4月	新華社香港分社社長(90.1)	外交部副部長		幹部(國家)	
127 周文元	男		河北省(現天津市)武清縣	1940年7月	1963年4月	瀋陽軍區副政治委員(92.11)、中將	全軍政治領導小組組長(89.1)	總政治部副主任(85.4)	軍人	
128 周玉書	男		湖南省攸縣	1933年8月	1956年9月	廣州軍區副司令員(83.1)、中將	人民武裝警察部隊司令員(90.2)	第2集團軍軍長	軍人	核問題參加
129 周光召	男		湖南省長沙市	1929年5月	1952年6月	中國科學院院長(87.1)	科學院物理研究所所長	總政治部常務副部長	幹部(國家)	知識分子？
130 周克玉	男		江蘇省阜寧縣	1929年3月	1945年4月	總後勤部政治委員(90.4)、中將	總政治部常務副部長	濟南軍區組織部部長	軍人	核問題參加
131 鄭必堅	男		四川省富順縣	1932年5月	1952年9月	中共中央宣傳部副部長(92.9)、中國社會科學院副院長(88.9)	中共中央總書記特別輔佐(88.6)		幹部(國家)	
132 趙志浩	男		山東省黃縣(現龍口(現布？))	1931年11月	1947年1月	山東省省長(89.3)	(山東省内で昇進)		幹部(地方)	
133 趙南超	男	少数民族(朝鮮族)	吉林省永吉縣	1926年4月15日	1947年2月	軍事科學院院長(92.10？)、上將	總後勤部部長(87.11)	總後勤部副部長	軍人	
134 趙富林	男		河北省大名縣	1932年7月	1948年7月	中共陝西區委書記(90.12)	中共湖北省委副書記	(湖北省内で昇進)	幹部(地方)	
135 郝建秀	女		山東省嶗山縣	1935年11月	1953年11月	國家計劃委副主任(88.10)	中共中央書記(85.9)	紡織工業部部長	幹部(國家)	
136 胡平	男		浙江省嘉興縣	1930年7月	1950年3月	國務院特區辦公室主任(93)	商業部部長(88.4)	國家計劃委副主任	幹部(國家)	
137 胡際立	男		陝西省榆林縣	1929年10月	1948年4月	電子工業部部長(93.3)	機械電子工業部副部長(91.5)	政治局常務委員	幹部(國家)	
138 胡雷國	男		山西省長子縣	1937年10月	1959年12月	山西省省長(83.1)	中國統配煤鐵總公司總經理	能源部副部長	幹部(地方)	
139 胡錫濤	男		安徽省績溪縣	1942年12月	1964年4月	政治局常委、書記處書記(92.10)	中共西藏區委書記(88.12)	中共貴州省委書記	幹部(黨中央)	
140 侯捷	男		河北省灤縣	1931年1月	1948年12月	建設部部長(91.3)	水利部副部長	黑龍江省省長	幹部(地方)	
141 侯宗寶	男		河北省南和县	1929年1月	1946年6月	中共河南省委書記(90.3)	陝西省省長	中共甘肅省委副書記	幹部(地方)	電力・能源担当
142 姜春霖	男		山東省萊西縣	1930年4月	1947年2月	政治局委員(92.10)、中共山東省委書記(88.12)	山東省省長	中共濟南市委書記	幹部(地方)	
143 姜偉民	男		江蘇省蘇州市	1939年7月	1962年2月	國家體育運動委副主任(94.11)	女子バレーボール・コーチ		幹部(國家)	

姓名	選任	性別	民族	原籍	生年	入党	現職	前職1	前職2	属性	備考
144 熱地	再	男	少数民族(藏族)	西藏(現自治区)比如	1938年8月	1961年10月	中共西藏区委副书记(90.7) 西藏区政協主席(86.5)	中共西藏区委副书记		幹部(地方)	
145 賈慶林	新	男		河北省文安縣	1940年3月	1956年12月	福建省省長(91.4/93.1?) 福建省省長(86.5)	中國機械設備進出口總公司總經理 (甘肅的石油開發に關係)		幹部(地方)	
146 賈志杰	昇	男		吉林省扶余縣	1935年12月	1960年5月	國家安全部部長(86.9)、人民警察總警監(92.12)	中共北京市委副書記	共青团第11期中央常務委員	幹部(國家)	14大以前に昇格?
147 賈春旺	再	男		北京市	1938年5月	1962年9月	化學工業部部長(89.7)	江蘇省省長	國家計劃委員會主任	幹部(國家)	
148 顧秀池	再	女		江蘇省南通市	1936年12月	1956年9月	中共甘肅省委書記(90.11)	四川省副省長	自貢市副市長	幹部(地方)	
149 顧金池	再	男		河北省雄縣	1932年2月	1949年10月	政協全國委副主席(88.4)	水利電力部部長	水利部部長	幹部(國家)	
150 錢正英(原名:錢美端)	再	女		浙江省嘉興縣	1923年7月	1941年9月	政協全國委副主席(88.4)	水利電力部部長	水利部部長	幹部(國家)	
151 錢其琛	再	男		江蘇省(現上海市)嘉定縣	1928年1月	1942年10月	外交部部長(88.4)	(外事工作)		幹部(國家; 外事)	
152 錢木齋・蓮瓦買提	再	男	少数民族(ウイグル族)	新疆・托克遜	1927年6月	1952年12月	新疆区政府主席(85.12)	國家民族事務委副主任		幹部(地方)	
153 倪志福	再	男		江蘇省(現上海市)川沙縣	1933年5月	1956年10月	全國總工會主席(78.11)、 全人大常務委員(88.4)	政治局委員		幹部(大眾団体)	
154 徐惠滋	再	男		山東省蓬萊縣	1932年12月	1950年3月	常務副總參謀長(85.4)、中將			軍人	
155 高嶽	新	男		吉林省榆樹縣	1942年12月	1965年6月	吉林省省長(92.3)	(吉林省内で昇進)		幹部(地方)	
156 高天正	新	男		河北省(現北京市)通縣	1931年2月	1949年12月	廣州軍区副政治委員(90.5)、少將	廣州軍区政治部主任		軍人	
157 高德占	昇	男		山東省濰縣縣	1932年8月	1950年4月	中共天津市委書記(93.3)	林業部部長(88.4)	吉林省省長	幹部(地方)	
158 郭振乾	再	男		河南省洛寧縣	1933年2月	1949年3月	中國人民銀行副行長(90.4)	湖北省省長	湖北省副省長	幹部(國家)	
159 郭超人	再	男		湖北省廣濟縣	1934年10月	1960年3月	新華通訊社社長(92.12)	新華通訊社社長(84.8)	新華通訊社秘書長	幹部(國家)	
160 黃菊	新	男		江蘇省靖江縣	1935年4月	1949年8月	公安部部長(90.12)、人民警察總警監(92.12)	(上海市内で昇進)		幹部(地方)	
161 黃璜	元	男		江蘇省連水縣	1933年8月	1949年4月	中共寧夏省委書記(90.1)	中共安徽省委書記	江西省副省長	幹部(地方)	中央委員(85-87)
162 黃瑛	新	女		四川省巴中縣	1933年11月	1952年8月	全國婦聯會第1書記(90.2)	中共四川省委常務委員	(四川省内で昇進)	幹部(大眾団体)	
163 黃啓瑛	新	男		江蘇省南通縣/市?	1941年1月	1981年6月	交通部部長(91.3)	(交通部内で昇進)		幹部(國家)	
164 黃錫東	新	男		河南省林縣	1929年8月	1946年9月	空軍司令員(92.11)、空軍中將	瀋陽軍区副司令員(87)		軍人	
165 曹双明	新	男		河北省樂亭縣	1930年7月	1949年3月	蘭州軍区政治委員(90.6)、少將	濟南軍区副政治委員	四野系	軍人	
166 曹凡生	新	男		湖北省漢口市	1929年	1945年11月	冶金工業部部長(85.9)	(冶金部内で昇進)		幹部(國家)	
167 崔乃夫	再	男		河北省(現北京市)昌平縣	1928年10月	1948年5月	民政部部長(82.5)	民政部副部長	蘭州大學教務長	幹部(國家)	
168 梁棟材	再	男		廣東省廣州市	1932年5月	1961年3月	國家自然科學基金委員會副主任(89.2)	科學院南海海洋所副研究員	科學院南海海洋所副研究員	幹部(國家)	
169 梁棟材	再	男		浙江省新昌縣	1931年1月	1949年3月	監察部部長(87.6)	中共中央組織部部長	全國總工會副主席	幹部(國家)	
170 尉健行	再	男		湖南省瀏陽縣	1929年12月	1946年5月	國家計劃出產委員會主任(88.1)	國家教育委員會主任		幹部(國家)	
171 彭鳳臺	昇	女		山東省莒南縣	1931年10月	1948年12月	浙江省省長(91.3)	中共寧波市委書記		幹部(地方)	王漢斌の妻
172 葛洪升	再	男		浙江省吳興縣	1931年7月	1956年4月	中國核工業總公司總經理(88.5)	核工業部部長	核工業部副部長	幹部(黨中央)	
173 蔣心雄	再	男		江蘇省吳興縣	1930年5月	1961年6月	中共中央統戰部常務副部長(90.9)	科學技術委副主任・國家專利局局長	四川省省長	幹部(國家)	
174 蔣民寬	新	男		江蘇省宜興縣	1937年11月	1960年3月	中國民用航空局局長(91.2)	中共江西省委副書記	航空工業部直屬機關黨委書記	幹部(國家)	
175 蔣祝平	新	男		黑龍江省哈爾濱市	1932年2月	1950年4月	鐵道部部長(92.9)	上海鐵路局局長	柳州鐵路局局長	幹部(國家)	
176 程維高	再	男		江蘇省蘇州市	1938年9月	1950年12月	中共湖北省委書記(89.1)、湖北省省長(91.4)	河南省省長	中共南京市委書記	幹部(地方)	
178 傅全有	再	男		山西省(現原平)縣	1930年11月	1947年8月	總後勤部部長(92.10)、上將(98.6)	蘭州軍区司令員(90.5)、中將	成都軍区司令員	軍人	(一野系?)
179 傅錫秦	昇	男		北京市	1931年1月	1956年8月	安徽省省長(89.4)	中共馬鞍山市委副書記		幹部(地方)	

	姓名	選任性別	民族	原籍	生年	入党	現職	前職 1	前職 2	属性	備考
180	魯平	新男		四川省開中県	1927年9月	1945年7月	國務院香港マカオ弁公室主任(90.11)			幹部(国家)	
181	普朝柱	再男		雲南省華寧県	1929年8月	1948年2月	中共雲南省委書記(85.7)	雲南省省長	(雲南省内で昇進)	幹部(地方)	
182	温家宝	再男		天津市	1942年9月	1965年4月	中共中央弁公庁主任(86.5)	地質鉱産部副部長	甘粛省地質局副局長	幹部(党中央)	
183	謝非	再男		広東省陸豊県	1932年11月	1949年7月	中共広東省委書記(91.1)	中共広州市委書記	中共広東省委弁公庁主任	幹部(地方)	
184	謝世杰	新男		四川省梁山県	1934年9月	1954年12月	中共四川省委副書記(93.3)	中共四川省委副書記(90.11)	(四川省内で昇進)	幹部(地方)	
185	雷鳴球	再男		湖南省祁東県	1942年6月	1964年6月	広州军区某集団軍政治委員(86.4)、中将			軍人	深圳特区駐屯?
186	路甯祥	昇男		浙江省寧波市	1942年4月	1974年5月	中国科学技術協会副主席(86.6)、浙江大学校長(89.4)	(機械工学專家)		幹部(国家)/知識分子?	
187	廖暉	再男		広東省恵陽県	1942年5月	1965年12月	中国科学技術協会副主席(86.6)、浙江大学校長(89.4)			幹部(国家)	廖家志の長男
188	譚紹文	新男		四川省新津県	1929年7月	1955年5月	中共天津市委書記(89.10)	(天津市内で昇進)		幹部(地方)	93.2死去
189	魏金山	再男		山東省蓬萊県	1927年4月	1945年12月	海軍政治委員(90.6)、海軍中将	海軍副政治委員	總參謀部政治部主任	軍人	三野系